

## ミューズ NO. 31 平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行:2014 年 3 月

編集:山辺昌彦、山根和代、安斎育郎

翻訳: 竹田敦子、谷川佳子、寺沢京子、山根和代

イラスト:戸崎恵理子

事務局:戦争と平和の資料館ピースあいち 宮原大輔

住所:〒465-0091 名古屋市名東区よもぎ台 2-820

Tel & Fax: 052-602-4222

### 第 8 回平和のための博物館国際会議

開催日: 2014 年 9 月 19-22 日

場所: 韓国ノグンリ平和公園 (No Gun Ri Peace Park)

主催: ノグンリ国際平和財団

テーマ: 記憶、歴史的真相、和解を促進する際の  
平和のための博物館の役割

会議の目的:

- INMP(平和のための博物館国際ネットワーク)に加入している博物館や関連した組織の情報交換をして、お互いに学び合うことができるようにすること
- 会議の参加者が他の参加者と対話し、ネットワーク作り、協調・協力関係を築くことができるようにすること
- 主催国(韓国)と主催団体が平和の文化を築く活動を示すこと

### 報告者募集

INMP では報告、パネル討論会、ポスターセッション、基調報告者の推薦を募集しています。  
締め切り: 2014 年 3 月 15 日までに提案を提出して下さい。(期日を過ぎた場合も連絡してみてください)。詳細や提出先は次の通りです。

<http://inmp.net/index.php/events/inmp-conferences/2014-no-gun-ri-south-korea>

なお日本語で提出したい方は、山根へ連絡して下さい。



erico

### わだつみのこえ記念館

高橋武智

2013 年は学徒出陣 70 周年にあたりました。わだつみのこえ記念館が展示・研究の対象とする戦没学生は、「出陣」より前の学徒兵も含みますが、高等教育を事実上廃止したに等しいこの出来事は、私たちにとって大きな節目です。そこで、昨年のすべての活動は、これを念頭においておこなわれました。特に、わだつみ会と共催のわだつみフォーラムでの白井厚さんの講演「大学における戦没者追悼を考える」には大勢の聴衆を集めることが

できましたし、また、久しぶりに館外の江戸東京博物ホールで盛夏中の三日間開催した「不戦へつなぐ―戦没学生遺稿遺品展」も大きな反響を呼ぶことができました。

ただ、学徒出陣の体験者がますます少なくなり、前面に出られなくなってきた事実は変えようもなく、今後の館の展示その他の活動をどう展開していくかは大きな課題でありましょう。もう一つ、同じ「大日本帝国臣民」でありながら、日本人学生とは差別され、出陣の日取りからして、1944年1月20日だった朝鮮人戦没学生についての研究を深めていくことも、宿題として残っています。

学徒出陣70周年は、メディアの上でも、それなりの報道がありましたが、それより特記すべきは、早大・慶応・法政・京大・東大などの各大学で、それぞれの大学史研究室が中心になって、展示会やイベントを催したことです。

外国からの来館者として、東大の博物館学の先生の紹介で、イングランドのレスター大学のヴィヴィアン・ゴールディング講師（博物館）が見えました。来日は科学博物館の線からだということでしたが、展示の内容や形式にいたく感動したようで、短い滞在中に二度も訪れてくれました。

## 「女たちの戦争と平和資料館」(wam)

館長 池田恵理子

『慰安婦』の強制はなかった」と主張する安倍首相のもと、2013年は日本の右傾化が顕著となり、年末には稀代の悪法・特定秘密保護法が成立し、首相は靖国参拝までして世界中から批判を浴びました。5月には橋下徹大阪市長が『慰安婦』制度は必要」と発言しています。あまりのことに憤った私たちは直ちに橋下市長に謝罪と発言の撤回、退陣を求める抗議文を送り、多くの女性団体とともに抗議集会を開きました。皮肉なことにこの「橋下効果」もあって、wamへの取材や入館者は急増。また憲法24条の男女平等の条項を起案したベアテ・シロタ・ゴードンさんの志を受け継ぐ取り組みや、「慰安婦」メモリアルデーの国際連帯活

動、教科書採択問題、国連の諸機関への資料提供やロビー活動など、wamにとっては多忙を極める1年でした。

2012年6月からの1年間は、東京と沖縄で沖縄展を開催しましたが、多数の慰安所の存在と共に戦後の米軍基地下の性暴力を伝えるパネル展は高く評価されて各地から出前展示の希望も多く、沖縄では今も巡回展が続行中です。7月からスタートした台湾展では、これまであまり知られてこなかった台湾の漢民族と原住民族の女性たちの被害、半世紀もの日本の植民地支配の傷跡、長年取組まれてきた被害女性支援のワークショップの紹介などに力点をおきました。昨年は被害女性の証言や日本の支援団体や研究者の話を聞くシンポジウムや連続セミナーを開催し、今年1月からはビデオ上映会を始めます。

しかし各国の「慰安婦」被害者の訃報が相次ぎ、「被害者が生きている間に解決を！」の思いに焦りは増すばかりです。被害女性は「慰安婦」問題を否定する政治家の暴言や右翼のヘイト・スピーチに傷つきながら、最後の力を振り絞って日本政府に問題解決を訴えています。

一方、wamの地を這うような活動に対して、昨年11月には日本平和学会から第4回平和賞が授与されました。「選考理由」には『慰安婦』問題の解決は被害者の尊厳の回復を促し、また、性暴力の温床となる社会構造の変革と東アジアにおける平和の達成に本質的な次元で寄与するものにほかならない。明確なコミットメントをもって、怯むことなく所期の目的を追求する本資料館の誠実な活動が、平和運動および平和研究に果たした貢献は顕著」とあり、一同、大感激しました。私たちはたいへんな逆風の中にいますが、このような応援を受けながら闘い続けます。

## 6周年を迎えた山梨平和ミュージアム

山梨平和ミュージアム 浅川 保

2007年5月、甲府市朝氣に山梨平和ミュージアム―石橋湛山記念館―が開館して6年余が経

しました。この間、常設展示の他に、年2回、都合12回の企画展を開催（現在は、「原発事故と放射能、エネルギーを考える」企画展を14年3月末まで開催中）、入館者は13年11月に1万人を超えました。また、毎月一回、通算70回を超える講演会・シンポジウム等を行い、マスメディアにも数多く取り上げられました。

13年6月16日、開館6周年記念講演は、歴史家の色川大吉氏を講師に160名が参加、盛況裡に終わりました。色川氏は「日本の進路と日本国憲法」の演題で、日本国憲法は鈴木安蔵氏ら憲法研究会の草案を参考にGHQが作ったものであり、「押し付け憲法」との批判は当たらない、自民党の改憲案は大日本帝国憲法に戻そうとするものと批判、7月の参院選で仮に自民党が多数を占めても、それは一時的であり決してひるまないと結ばれました。

昨年度から当ミュージアムが全国に募集した石橋湛山平和賞（詳細は当ミュージアムのHPを参照）ですが、2回目の13年度は、全国から、一般の部26件、中高校生の部114件の応募がありました。井出孫六選考委員長らが選考した結果、一般の部最優秀賞に大阪の池田裕一氏、中高校生の部は該当なしでした。14年も募集（7月から10月10日）しますので、全国各地からの応募を期待しております。



## 立命館大学国際平和ミュージアムの 2013 年度活動報告：京都市立命館大学国際平和ミュージアム 鳥井真木

立命館学園にとって、2013 年は「京大事件 80 年」（1933 年）「学徒出陣 70 年」（1943 年）「わだつみ像建立 60 年」（1953 年）を迎えました。昨今、現代日本を取り巻く多くの課題が浮上し、領土問題、歴史認識問題、歴史教育問題、憲法改定の議論など、日本の社会が戦後築き上げてきた平和と

戦争放棄の理念、アジアとの友好関係の必要性などを強く主張すべき問題がでてきています。また国内では、東日本大震災の復興支援や福島第一原発事故被害への支援、未来のエネルギーのあり方など、現代日本における生活の保障と科学技術の安全性をめぐる問題も、平和教育の大きな課題といえます。

以下に、2013 年度に開催した展示・活動の一部を紹介します。

### 【特別展】

- 春季：ジミー・ツトム・ミリキタニ回顧展一日系人強制収容所と 9.11 を体験した反骨のホームレス画家、特別企画展：丸木スマ展－生命をみつめて 5/14～7/20
- 巡回：世界報道写真展 2014 京都・滋賀・大分 9/18～11/17
- 秋季：目・耳・WAR－総動員体制と戦意高揚 10/23～12/15

### 【ミニ企画展】

- 第 79 回：チベットの風とともに（撮影：富樫浩之）4/13～5/8
- 第 80 回：一億必見！戦時標語 7/27～8/25
- 第 81 回：平和をつむいで 20 年（平和友の会）9/14～10/6
- 第 82 回：第 7 回立命館附属校平和教育実践展示 10/13～12/20
- 第 83 回：ミュージアムこの 1 てん ぜいたく夫婦よさようなら－『写真週報』第 132 号より 1/11～2/2

### 【ロビー展示】

- Picture for Peace UNOY 6/1～6/30 若者による平和のコンクール優秀作品展
- 学徒出陣 70 年：学生・大学と戦争 11/19～12/15

### 【講演会ほか】

- 第 8 回国際平和・人権連続セミナー～平和の諸相を見る「アジアの平和に向かって一東アジア共同体の展望と平和研究の課題」ガルト

ウング博士とカセム館長の対話 4/23

- 立命館土曜講座：学徒出陣 70 年・「わだつみ像」建立 60 年 戦争と平和、大学そして学生 8/3（第 3065 回）「学徒出陣—わだつみ世代の伝言 出陣学徒 70 年目の証言」岩井忠熊、8/31（第 3066 回）「軍国少年の足跡—特攻隊を振り返って」芝田徳造
- ボランティアガイド学習会第 1 回（5/18）立命館大学国際平和ミュージアムのガイドとして活動すること 講師：安斎育郎、第 2 回（9/21）広島・長崎への原爆投下の真実と和解を求めて—日米学生平和の旅を終えて考えたこと 講師：藤岡惇、第 3 回（12/14）子どもへの平和教育—“性奴隷制”をどう伝えるか 講師：池田恵理子 wam 館長

そのほか、夏休み親子企画、下見見学会、博物館実習・インターンシップ・中学校チャレンジ体験の受入れ、NGO ワークショップなどの企画を行ないました。

## 平和資料館・草の家：高知

事務局員 安部愛

2012 年度末に開いた草の家平和講座・憲法学習会の連続講座として 2013 年 5 月 18 日、高知短期大学にて「今、憲法『改正』を考える」（講師：岡田健一郎さん）を日本科学者会議高知支部と共催で開催しました。参加者は 42 名でした。

5 月 11 日には「2013 年度草の家総会」が開かれました。オープニングで岡村啓佐（けいすけ）さんから 3.11 後（2013 年 2 月）の福島取材報告がありました。特に印象に残ったのは、憲法改悪の策動が強まる中、今日ある日本国憲法の前文と第 13 条、この二つの「モノサシ」こそが、今回の原子力発電所の「核災害」、震災復興、そして沖縄の米軍基地問題を解決する唯一の道である、というお話でした。「フクシマの今」については現在も取材継続中で、11 月（12～15 日）にも草の家から数名が現地へ出向き、現地の方から直接現

状を聞き取る等調査視察しました。岡村さんが撮影した写真（50 点程）と資料（10 点程）は展示用に貸出しも行っています。

夏の間 6 月 11 日から 8 月 31 日にかけては、毎年恒例の平和文化行事「2013 ピースウエイブ in こうち」を開催し、今年も多くの方のご支援・協力のもと、「第 31 回平和七夕まつり」（6 月 29 日～7 月 31 日）、「第 35 回戦争と平和を考える資料展」（7 月 4 日～10 日）、そして「第 30 回平和美術展」、「第 30 回平和映画祭」、「第 30 回反核平和コンサート」、「第 19 回アジアの人々が連帯するつどい」、「第 7 回掩体コンサート」等々 10 余の行事を無事終えることができました。また、この季節は平和の語り部（講師）の活躍する時期でもあります。今年もたくさんの県内小・中学校から要請をいただいて、資料の遺品らも“平和の道具”として子供たちに触ってもらい活用されました。

そして、草の家が「抵抗の記憶」として常設展示している高知の反戦詩人・楨村浩（まきむらこう）の生涯が、劇団を主宰されている会員さんの手によって演劇舞台化され、9 月 7 日に県立美術館ホールにて昼夜 2 回上演されました。岡村正弘館長はじめ草の家関係者も役をもらい張り切って出演（熱演）しました。

10 月下旬、県が南海トラフ巨大地震発生に備えて計画していた日米共同防災訓練に対して、草の家含む県内 15 団体が加盟している「郷土の軍事化に反対する高知県連絡会」は 9 月 24 日、県に対して「実質的な軍事訓練である日米共同統合防災訓練の中止を求める要請書」を提出しました。また、訓練日直前の 10 月 16 日に高知県内上空にオスプレイ 2 機が飛来（目視で機体確認できる高さで）したことに對して草の家含む 3 団体で知事宛てに抗議要請を提出。結局台風の為訓練は中止となりましたが、今年 2 月 7 日予定で再び計画が発表され、1 月 22 日、連絡会は改めて知事宛てに訓練中止を求める要請書を申し入れました。当日

は現地・香南市陸上自衛隊・駐屯地前にて県内外各団体・個人と協力参加して抗議集会を予定しています。その他、主な取り組みの報告等は年 4 回発行の『草の家だより』（現在 121 号まで発行）に順次掲載しています。



#### ひめゆり平和祈念資料館：

2013 年 7 月、アニメ「ひめゆり」（30 分）の一般公開イベント「ひめゆりからの伝言」を那覇市内で開催しました。ひめゆり学徒の講話、絵本『ひめゆり』の朗読、アニメ上映の三部構成で、参加者からは「いろいろな表現によって戦争の悲惨さ、平和についての思いが伝わってきた」との感想がありました。

8 月には、アニメ「ひめゆり」のインターネットでの公開を始めました。世界に発信するため、英語の字幕をつけています

([http://youtu.be/eW9Ro2G\\_kUc](http://youtu.be/eW9Ro2G_kUc))。

また、夏休みイベントとして「元ひめゆり学徒の戦争体験講話」と「ひめゆりの映像上映と説明員トーク」を開催しました。当館の映像作品を上映し、非体験者の説明員が解説を行う「ひめゆりの映像上映と説明員トーク」は初めての取り組みでしたが、多くの人が熱心に聞いていました。

12 月 16 日～2014 年 3 月 31 日まで、2013 年度企画展「絵で見るひめゆりの証言」を開催しました。絵本・アニメ制作の経験を生かして、資料館で活動してきた証言員 16 人の体験をもとに、ひめゆり学徒一人ひとりの絵を制作しました。証言員にとって話すのがつらい体験もありましたが、戦争の残酷さ、恐ろしさを忘れないために、絵にすることになりました。言葉では想像するのが難しい体験も、絵で表現することで理解しやすくなったと非常に好評でした。

こうした取り組みを通して、ひめゆり学徒の体験を知り、戦争がどんなにむごいものか、平和がどれほど大切なものかを考えるきっかけにしてい

ただければと願っています。

Tel:098-997-2100 Fax:098-997-2102

<http://www.himeyuri.or.jp>

#### アメリカ人元捕虜による反戦・平和活動

「捕虜 日米の対話」東京代表：伊吹由歌子  
e-mail: [ibuki614@gmail.com](mailto:ibuki614@gmail.com)

朝鮮人・中国人と同じく、太平洋戦争で捕虜となった連合軍兵士 13 万 2 千余りのうち約 3 万 5 千人が日本に輸送され全国の鉱山、港湾などで奴隷労働を強制されました。軍部の反対でジュネーブ条約を批准せず、自国兵士には「生きて虜囚の辱めを受けず」と叩き込んだ第 2 次大戦日本軍による捕虜取扱は非人道的な残虐行為を生みました。ちなみに米捕虜の死亡率はドイツ軍で 1 %、日本軍では約 40%。日本でより、旧連合軍諸国、東南アジアで知られる人道と人権の問題です。

徳留絹枝氏設立・代表のサイト「捕虜 日米の対話」で米捕虜関連の記録をご覧ください：  
<http://www.us-japandialogueonpows.org> 2009 年 3 月麻生首相時代に捕虜使役報告書が国会に提出され、事実認定と首相から捕虜取扱に対する正式謝罪が行われました。日本政府は、戦後 50 周年から 10 年にわたり「平和友好交流計画」により米を除く英蘭など英連邦の元捕虜たちの来日に資金援助し、2010 年から米・豪の元捕虜を対象に、「日本人との友好プログラム」を発足させ元捕虜を招聘しています。

高校の英語教員だった私は 2000 年に米元捕虜 レスター・テニー・アリゾナ州立大名誉教授と会い初めてこの問題を知り、元捕虜たちの体験を聴きはじめました。前掲サイト「捕虜体験記」で彼の「パターン死の行進」体験を紹介しています。貧しいが愛情深く前向きなユダヤ系家庭に育った彼は、国への義務を果たしてから恋人との人生を始めようと 20 歳で兵役志願、フィリピンに送られ、1942 年 4 月、パターン半島の米比軍降伏で日本軍

捕虜となります。理不尽な暴力に晒された捕虜生活でも生還という目標に向かい常に前向き、日本語を覚え食料確保に動き、仲間の士気を上げる演芸活動など努力を惜しみません。1960年代に留学生・田坂徹氏と知合って日本人を憎んでいない自分に気付いたと言います。2001年、小学校から大学院まで13の会場で、約800人の若い世代がテニーさんに会い体験を聴き交流しました。彼の著書も公正で前向き、共訳して「バターン 遠い道のりの先に」として出版しております。

招聘による元捕虜との交流は進み、迎え入れ話を聴く会社や地方行政府が増え、ネガティブだった雰囲気が理解と友情へ方向転換した地もあります。連合軍捕虜と日本市民との交流と戦争体験共有、第4回で来日したボブ・ヒアさんは岸田外相に「いま、悲しみを共有できて嬉しい」と告げました。

2010年の第一回招聘で、米捕虜組織元会長のエドワード・ジャックファートさんも来日されました。2004年初めて出席した「バターン・コレヒドール防衛米兵の会」(ADBC)の年次会で会った時は、「日本の国会で捕虜扱いが討議され事実が認められて謝罪を受けたら日本に行く。」と仰る方でした。来日時には、バターン戦を戦い、のちにシベリア抑留から生還した渡辺時雄さんを訪ね交流しました。サイトの捕虜体験記、招聘報告、エッセイ「バターンで拾った米兵のアルバム」などをご参照いただけると幸いです。戦後は米財務省官吏を勤め上げ、筋目を通す誠実な人柄です。最近、彼が2ヶ月前行った講演をもらい感動したので和訳、サイトのニュースに掲載されました。2006年に彼は自伝を出版したのですが、太平洋戦争の捕虜体験につき収集した資料を、2005年自分の住むウェスト・ヴァージニア州ブルック郡の公立図書館に寄贈したのです。ADBCの他の元捕虜たちもこぞって貴重な資料を寄贈し、ADBCミュージアム構想となりました。2009年、ADBCは会員の高齢化にともない解散。次世代が受け継いで毎年、

異なる都市で年次会を開いていますが、2011年、ピッツバーグの会場からバスで見学が組まれました。「戦争は悲劇と破壊」と位置づけ、多くのボランティアが集まって資料を整理、展示していました。施設拡大の必要があり公的資金に応募したが叶わずミュージアムは挫折を体験したのです。今年秋の講演でエドさんの変わらぬ信念と活動を知りました。膨大な資料を活用して戦争の不毛さを広く国際的に知らせ、国連を強化し、国際紛争解決に戦争以外の手段を開発しよう。その手がかりとなるのが、ドイツの設立した「記憶・責任・未来財団」、そして「日本の憲法9条」という内容で、米軍人や大統領らの反戦メッセージが入っています。元アメリカ捕虜個人が、挫折を経て勉強し、この呼びかけをした。本来、米国内に向けた訴えですが、同じ戦争を知る個人として私も応答したいと思いました。読んだ友人からも寄金を預かるようになり、テニーさんの翻訳書を出版の際に彼が命名した口座で受け私が送金することにしました。「日米理解教育基金係」：00140-7-31591「ちりも積もれば」という一般市民の貢献、ご賛同くださる方、まず相手の話を聴く精神で一言エドさんの訴えに応答を添え、米市民との交流を始めませんか？2013年クリスマスに第一回の寄付を送り、ジャックファートさんもジェインさんも大変喜び、送ってくださった一人ひとりによるしくとのこと。日米市民が戦争事実の共有と学びを基礎に、平和のため共に働く機会としてご理解とご協力をお願いする次第です。

## 市民ネットワークニュース



### 2013年特別展

#### 本別町歴史民俗資料館：北海道

企画展「7月15日日本別空襲を伝える一十勝に残る戦争跡地」が2013年7月2日～8月30日の会期で開催されました。弾痕がある本別農協倉庫の

外壁の一部、空襲で溶けたガラスの塊、弾痕の残る馬の歯切断具、20 ミリ機銃の薬きょうなど約100 点を展示しました。「本別空襲」ではアメリカ軍機約 40 機による爆弾と機銃で住民 40 人が死亡し、町中心部の約 3 分の 2 が焼失し、十勝地方最大の被害が出ました。企画展は空襲の記憶を伝えるため、2001 年から毎年開かれています。

Tel:0156-22-5112

[http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/town/catt/post\\_21.html](http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/town/catt/post_21.html)



### 釜石市郷土資料館：岩手

2013 年度テーマ展「艦砲戦災からの復興－釜石の戦後復興」が 2013 年 7 月 13 日～9 月 8 日の会期で開催されました。68 年前の 1945 年 7 月 14 日と 8 月 9 日、釜石は艦砲射撃による攻撃を受けました。今回のテーマ展は戦後の釜石が復興する足跡を紹介します。内容は、被害を受けた製鉄所の再出発、国鉄・釜石線の全通、仙人道路の開通、橋上市場の誕生などです。

Tel&Fax:0193-22-2046

<http://www.city.kamaishi.iwate.jp/kyoudo/index.html>

### 仙台市戦災復興記念館：宮城

「戦災復興展－米軍資料に記録された仙台空襲」が 2013 年 7 月 5 日～15 日の会期で開催されました。戦災復興展は、仙台空襲のあった 7 月 10 日の前後に、後世に伝え継ぐ機会とするとともに、大惨事となった仙台のまちの復興に力をそそいだ方がたへ感謝の念を新たにする場として開かれています。2013 年は、企画展として「米軍資料「作戦任務報告書」に記録された仙台空襲」、初公開となる「仙台空襲直後の東北大学金属材料研究所のプリント写真」の展示をするとともに、戦災体験発表、紙芝居上演、復興支援市、すいとん食べく

らべ試食、きらめく星のコンサートなどの催しを開きました。

Tel:022-263-6931 Fax:022-262-5465

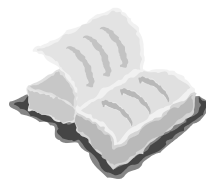
<http://www.stks.city.sendai.jp/hito/WebPages/sisetu/sensai/index.html>

### 仙台市歴史民俗資料館：宮城

『調査報告書第 31 集 足元からみる民俗 (21)』が 2013 年 3 月 31 日に刊行されました。資料紹介「「満洲事変」の『陣中日誌』について－野砲兵第 2 連隊第 1 大隊本部『陣中日誌』より（中間報告 3）」や「戦時体制下の東北振興政策」1 が掲載されています。『資料集第 11 冊 収蔵資料目録 VI』が同じく 2013 年 3 月 31 日に刊行され、「旧四連隊(戦時)関係」の資料目録も収録されました。

Tel:022-295-3956 Fax:022-257-6401

<http://www.city.sendai.jp/kyouiku/rekimin/index.html>



### 南相馬市中央図書館：福島

1945 年 8 月 10 日の原町空襲の写真、資料を集めた展示会がギャラリーで 8 月 10 日～18 日の会期により開催されました。空襲で大きな被害を受けた原ノ町駅の様子を目撃者の記憶を基に再現した絵など約 40 点が展示されました。

Tel:0244-23-7789 Fax:0244-24-6986

<http://www.city.minamisoma.lg.jp/index.cfm/23.html>

### 龍ヶ崎市歴史民俗資料館：茨城

戦争のない平和な社会が永久に続くことを願い、沖縄戦写真パネル展が 2013 年 8 月 2 日～16 日の会期で開催されました。

Tel:0297-64-6227 Fax:0297-64-6360

<http://www.ryureki.org/>

### 埼玉県平和資料館：東松山市

2013 年 3 月 25 日からリニューアル工事のため臨時休館していましたが、10 月 20 日に愛称を「埼玉ピースミュージアム」とつけ、入館料を無料にして、リニューアル開館しました。世界の平和を願う幅 18m・高さ 8.5m の大壁画や、平和な社会を創造する取組を紹介するコーナーが新設され、年表は簡素化され、写真がなくなり、常設展の一部も変わりました。

2013 年度テーマ展「復興－何度でも、立ち上がって」が企画展示室で 2013 年 10 月 20 日～12 月 1 日の会期により開催されました。戦災からの復興を中心に、関東大震災・水害・東日本大震災などの自然災害やそれからの復興も取り上げて、約 155 点を展示していました。壊滅的な被害を受け、多くの物を失いながらも、何度も力強く立ち上がり、復興を遂げてきた人びとの姿を紹介していました。図録を刊行しています。

関連して、戦争を体験された方の話を聞き、平和について考える、戦時中の体験を聞く会が 11 月 17 日に開かれ、終戦の記憶をテーマに 2 人が話しました。

Tel:0493-35-4111 Fax:0493-35-4112  
<http://homepage3.nifty.com/saitamapeacemuseum/>



### 入間市博物館アリット

第 17 回平和祈念資料展が特別展示室で 2013 年 8 月 1 日～11 日の会期により開催されました。戦争の悲惨さや平和の尊さを改めて考えてもらうために、展示内容を変えながら、毎年開催しているものです。今年は広島平和記念資料館の所蔵品・パネルなどを展示し、折り鶴コーナー、ビデオ上映コーナーもありました。

Tel:04-2934-7711 Fax:04-2934-7716  
<http://www.alit.city.iruma.saitama.jp/>

### ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館：埼玉

第 1 回企画展「造兵廠－市内にあった陸軍施設」が 2 階展示室で 2013 年 6 月 15 日～8 月 18 日の会期により開催されました。陸軍施設「造兵廠」の模型が常設展示に加わったことを記念して、造兵廠に関する館蔵資料やこれまでの調査について紹介していました。

Tel:049-261-6065 Fax:049-269-4817  
<http://www.city.fujimino.saitama.jp/facility/bunkasports/siryokan/index.html>



### 蕨市歴史民俗資料館：埼玉

第 24 回平和祈念展「戦争と子どもたち」が 2 階展示室で 2013 年 7 月 27 日～9 月 29 日の会期により開催されました。戦争中の極限の生活を強いられるという悲劇を繰り返さないために、戦争の事実・記憶を伝えるもので、今回は子どもたちの学校生活や遊びの道具を中心に紹介し、平和の尊さを考えるものでした。

Tel:048-432-2477  
<http://www.city.warabi.saitama.jp/hp/menu000000200/hpg000000120.htm>

### 東京大空襲・戦災資料センター：江東区

特別展「東方社カメラマンがとらえた市民の暮らし－戦時下の日本・中国・東南アジア」が 2 階会議室で 2013 年 7 月 31 日～9 月 8 日の会期により開催されました。今回の特別展では、東方社が撮影した市民の暮らしの写真を紹介しました。東方社は陸軍の下で日本の対外宣伝を担っていましたが、今回の写真の多くもそのために撮られたものです。空襲への備え、近代的な工場で働く労働者が余暇にいそしむ様子、戦時スローガンがあふれる街、子どもたちの訓練、大東亜の首都とされた東京で学ぶ留学生たち、日本支配下の中国や東南アジアの人たちの暮らしなどは、そのような意



図による写真です。しかし、そこからは、勉学を捨てて、工場で働く勤労働員の学生、勤労奉仕に動員される子どもたち、日本軍に使役されたり、日本軍の宣伝を担わされる中国の子どもたちの姿も見るができます。また、東方社の写真には、抗日のスローガン・漫画や、戦時動員に必ずしも忠実でない市民の姿など、陸軍の思惑と異なる現実を伝えるものもあります。写真を批判的に見ていくことで、戦時下の日本とその占領地の市民たちの暮らしがどのようなものであったかを改めて考えていただきたいという趣旨で開かれたものです。図録を刊行しています。

関連して、8月3日に記念講演会が開かれ、井上祐子さん「東方社写真の全体像と中国関係及び留学生関係写真について」、山辺昌彦さん「留学生関係を除く日本国内関係写真について」、小山亮さん「東南アジア関係写真について」の講演がありました。

2013年夏の親子企画「みて!きいて!つたえよう!東京大空襲」が8月14日～18日に2階会議室で開催され、空襲体験者らの話、紙芝居、朗読などがありました。

Tel:03-5857-5631 Fax:03-5683-3326  
<http://www.tokyo-sensai.net/>



#### せたがや平和資料室:東京

せたがや平和資料室は2013年6月30日で閉室し、世田谷区立教育センターへ移転しました。

教育センターで「特別展 平和への願い」が2013年8月1日～31日の会期により開催されました。戦時下の若者、女性、子どもたちの様子、空襲、原爆の悲惨さを伝える写真主体の展示でした。空襲の写真は東京大空襲・戦災資料センターが提供したものです。常設展示は、2013年9月1日から開始され、戦争の悲惨さを後世に伝えるとともに、平和に対する理解を深め、恒久平和の実現に寄与するために展示しています。

Tel:03-3429-0811 Fax:03-3429-2844

<http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/107/157/749/750/d00005024.html>



#### 中野区平和資料展示室:東京

2013年度第1回「中野の空襲」が2013年6月4日～26日に、第2回「広島・長崎の原爆記録写真」が8月20日～9月1日に、それぞれ開催されました。この平和企画展示は、平和について幅広い視点からとらえ、日常的に見つめ直す機会となるよう、戦争被害に関する記録写真やさまざまなテーマを取り上げ、一定の期間展示をするものです。

Tel:03-3228-8987 Fax:03-3228-5476

<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/101500/d002433.html>

#### 足立区立郷土博物館:東京

企画展「昭和はじめの物語ー戦前戦中のくらしと映像」が2013年7月23日～9月16日の会期により開催されました。太平洋戦争の前後は特殊な状況のもとで人びとの暮らしは制限され、厳しい生活を送りました。空襲の被害を防ぐため都市からの疎開が決定されました。今回の企画展は昭和初期の生活の様子をたどりながら、戦時下の生活や足立区の子どもたちが親と離れたる食べ物がかたたりして、大変な思いをした学童疎開について紹介し、戦争が人びとに与えた影響をもう一度考えてみるものでした。文化遺産・歴史画像資料調査で復元編集した8ミリフィルム「戦時下の社会」などの映像も上映していました。

Tel:03-3620-9393 Fax:03-5697-6562

<http://www.city.adachi.tokyo.jp/hakubutsukan/chiikibunka/hakubutsukan/index.html>

### すみだ郷土文化資料館：東京

特集展示「国策紙芝居とすみだ」が2013年5月3日～8月25日の会期で開催されました。紙芝居は街頭で演じられ、子どもたちに絶大な人気を博しました。1930年代後半には偉人の業績や、勤勉・勤労の尊さ、貯金の重要性をうったえた教育的な印刷紙芝居が登場し、学校や職場などで盛んに演じられるようになりました。今回の展示は、墨田区域の工場や学校などで演じられたと思われる紙芝居を紹介し、日本独自のメディアである紙芝居が地域に与えた影響について考えるものでした。

Tel:03-5619-7034 Fax:03-3625-3431

[http://www.city.sumida.lg.jp/sisetu\\_info/siryou/kyoudobunka/index.html](http://www.city.sumida.lg.jp/sisetu_info/siryou/kyoudobunka/index.html)



### 豊島区立郷土資料館：東京

研究紀要『生活と文化』第22号が2013年3月31日に刊行され、青木哲夫さんの論文「学童集団疎開 到着から冬物送付まで」などが掲載されています。

Tel:03-3980-2351 Fax:03-3980-5271

<http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/shiryokan/>

### 昭和のくらし博物館：東京・大田区

「子どもと戦争」展が2013年8月1日～31日の会期で開催されました。戦争は子どもにも犠牲を強います。物不足のなか、ひもじさのなか、また敵による空襲のもと、それでも子どもたちは戦争の時代を生きぬきました。幼い子たちは疎開し、少年少女たちは銃後の担い手として働きました。反面、子どもたちは戦争の讃美者でもありました。神国日本の不敗を信じて疑わなかったのは大人よりもむしろ子どもたちであったのかもしれませんが。時代の空気と、戦争教育のなせるものでした。平和教育こそが平和を守る命綱であるという思い

で開催された展示会です。

Tel&Fax:03-3750-1808

<http://www.showanokurashi.com/>

### 日本女子大学成瀬記念館

「軽井沢夏季寮の生活―戦時下の三泉寮」が目白本館で2013年6月14日～7月31日の会期により開催されました。戦時期を対象として、主に附属豊明小学校の集団疎開生活を紹介していました。1944年8月、上野を出発した児童たちは、翌年11月までの1年3か月間、親元を離れて三泉寮で集団生活を送りました。児童たちの生活の様子を、小学校に残された文書類や写真などで伝えています。あわせて、大学部学生の夏季寮や戦時中の軽井沢町の様子を写真パネルで展示し、戦時下の三泉寮の全体像を紹介していました。

西生田記念室では、目白と同時開催で、戦時期の三泉寮の様子を伝えるとともに、西生田の地につくられた「長期錬成道場」への疎開や、戦時期の軽井沢町の様子なども紹介していました。

Tel:03-5981-3376

[http://www.jwu.ac.jp/unv/library-building/naruse\\_memorial/index.html](http://www.jwu.ac.jp/unv/library-building/naruse_memorial/index.html)



### 慶應義塾福澤研究センター

展覧会「慶應義塾と戦争Ⅰ 慶應義塾の昭和十八年」が第1会場の慶應義塾図書館展示室では2013年12月2日～26日の会期により、第2会場の慶應義塾大学アート・スペースでは2013年11月25日～12月18日の会期により、それぞれ開催されました。慶應義塾福澤研究センターに作られた「慶應義塾と戦争」アーカイブ・プロジェクトによるもので、プロジェクトは社中の方がたから資料を集め、聴き取りをおこない、戦後70年に向けて戦中・戦後の慶應義塾を実証的に見直す試みをしています。明治時代から昭和戦前に至るまで、

大学に在学中の学生は、兵役の義務を猶予される特権を与えられていました。しかし戦争の拡大に伴い、1941年より国は大学の年限を短縮して卒業を早め、次いで1943年には猶予の制度を停止し、20歳以上の学生は学業半ばで陸海軍へと入隊していきました。いわゆる「学徒出陣」です。本展覧会は、今からちょうど70年前に当たるこの戦争の時代の義塾を見つめ直す、3回シリーズの展示の第1回として、日米開戦より学徒出陣までを、慶應義塾内の諸記録や、新たに発見・収集された資料などを用いながら、たどっていくものです。戦争の記録は、将来再びそのような惨禍を招かぬためにも大切なものです。展覧会が戦争当時と慶應義塾を見つめ直す機会となることを願って開かれたものです。慶應義塾福澤研究センターに寄贈された宅島徳光の日記や、妹さんから提供された上原良司の日記も展示されました。

Tel:03-5427-1603 Fax:03-5427-1605

<http://project.fmc.keio.ac.jp/>



### 法政大学史センター

学徒出陣70周年を記念して、記念展示会「学び舎から戦場へー学徒出陣70年法政大学の取り組み」が外濠校舎6階展示スペースで2013年12月9日～20日の会期により開催されました。法政大学は戦後、「自由と進歩」という校風のもと“戦争と平和”というテーマに真摯に向き合ってきた歴史があります。特に学徒出陣に対しては1990年3月の学位授与式において、当時の阿利莫二総長の発案によって戦没した学生の遺族への卒業証書授与がおこなわれています。また第2次世界大戦終結から50年目にあたる1995年には経済学部同窓会が同窓生や教職員に呼びかけ、戦時下の学生が学業半ばで軍隊や工場に動員された不幸な時代を語り継ぐために「平和祈念碑」を建立しています。今回の記念展示会は、1990年以降の法政大学の「学徒出陣」への取り組みとともに、2012年

から6年計画で始まった学徒出陣者等への聞き取り調査の成果などを紹介し、学徒出陣から70年の節目にあたって、改めて戦争や平和の問題を考える機会とするために開かれたものです。

関連して公開シンポジウムが12月16日に開かれ法政大学出身の学徒出陣経験者3名が登場し、公開インタビューがおこなわれ、増田壽男法政大学総長により平和へのメッセージが読み上げられました。

Tel:03-5212-4108 Fax:03-5212-4109

[https://www.hosei.ac.jp/kyoiku\\_kenkyu/kenkyusho/another/daigakushi.html](https://www.hosei.ac.jp/kyoiku_kenkyu/kenkyusho/another/daigakushi.html)

### 国立公文書館

2013年連続企画展第3回「空襲の記録ー全国主要都市戦災概況図」が2013年8月12日～9月20日の会期で開催されました。1945年12月に第一復員省が編纂し、引揚者に故郷の戦災状況を伝えた「全国主要都市戦災概況図」を、3期に分けて北海道から鹿児島県までの約130都市分を展示していました。

Tel:03-3214-0621

<http://www.archives.go.jp/>



### 八王子市郷土資料館:東京

コーナー展「日中戦争ー青年教員の出征」が2013年7月19日～9月1日の会期で開催されました。寄贈・館蔵資料の中から、1937年日中戦争開始直後に上海に派遣された八王子出身の教員・和智昭元の遺品を展示していました。

関連して、講座「八王子空襲と戦時下の生活」が8月16日と17日に開かれ、戦争中の生活についての体験談、郷土資料館ガイドボランティアによる座談会、紙芝居などがありました。

Tel:042-622-8939 Fax:042-627-5919

<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisetsu/28254/028261.html>

### 東村山ふるさと歴史館:東京

ロビー展「あの日々の記憶―戦時中の東村山」が2013年8月1日～9月23日の会期で開催されました。戦争の記憶も風化しつつあり、「戦争」について語り継いでいく必要があります。今回は「東村山の警防団と空襲」「戦前戦時の教育と二宮金次郎像」「航空写真に見る戦時中の東村山」のコーナーを設け、戦時中の東村山の一端を紹介していました。

Tel:042-396-3800

<http://www.city.higashimurayama.tokyo.jp/tanoshimi/rekishi/furusato/index.htm>



### 福生市郷土資料室:東京

企画展示「平和のための戦争資料展」が2013年7月6日～9月16日の会期で開催されました。郷土資料室では、毎年終戦の日に合わせて戦争関連資料の展示会を開催しています。今回の展示は、日清・日露戦争から太平洋戦争にスポットをあて、戦時中の生活資料などから、福生と戦争の歴史について考えるものでした。

Tel:042-530-1120

<http://www.museum.fussa.tokyo.jp/>

### 川崎市平和館:神奈川

2013年度企画展「環境から考える平和」が日本平和学会の協賛により、2013年11月15日～12月18日の会期で開催されました。今年度の企画展は、「環境から考える平和」をテーマに地球温暖化やエネルギー問題を平和の視点から考えたパネル展示と出展するユースによる発表・ディスカッション及びモデレーターによる講演を内容とするイベントが実施されました。

Tel:044-433-0171 Fax:044-433-0232

<http://www.city.kawasaki.jp/25/25heiwa/home/heiwahome/>

### 明治大学平和教育登戸研究所資料館:神奈川・川崎市

特別パネル展示「731部隊展2013」が2013年8月7日～24日と9月4日～10月26日の会期で開催されました。「731部隊展」は戦争の実態を風化させることなく平和の礎を継承するため、731部隊の実態を伝えるものでした。

第4回 企画展「本土決戦と秘密戦―その時登戸研究所では何をしていたか」が2013年11月20日～2014年3月8日の会期で開催されました。登戸研究所は、1945年春以降、登戸（生田）から長野県伊那地方を中心とする地域に分散・疎開しました。これは、アメリカ軍による空襲とともに、同年秋以降に想定された本土決戦に備える措置でした。本企画展は以下の3点に焦点をあて、本土決戦体制下における登戸研究所の役割を検証していました。①本土決戦体制は決して「幻」だったわけではなく、現実準備されていたことを、松代大本営跡など長野県を中心とする地域の実地調査をもとに明らかにします。②本土決戦における秘密戦の実戦部隊であり、登戸研究所でも密接な関係であった陸軍中野学校（群馬県富岡に移転）の役割の変化について検討します。③本土決戦において使用する秘密戦兵器の研究・開発・生産にあたった疎開後の登戸研究所の実態について明らかにするとともに、次第に実戦部隊である中野学校と一体化していく過程を追跡します。

今回は生田キャンパスの登戸研究所資料館内だけでなく、中野キャンパスでもサテライト展示を開きました。2013年度の4月に誕生した中野キャンパスは、戦前には「スパイ」養成所であった「陸軍中野学校」が存在していた場所でした。

関連して、企画展記念講演会が山田朗館長を講師に2014年1月11日に開かれました。

Tel&Fax:044-934-7993

<http://www.meiji.ac.jp/noborito/index.html>



## 地球市民かながわプラザ(あーすぷらざ):横浜市

特別企画「わたしたちの暮らしと戦争」が2013年5月23日～9月1日の会期で開催されました。比較写真展示「横浜大空襲後と現在の横浜」では1945年・横浜大空襲後の横浜の姿を映した写真約30点と、その写真と照らし合わせた形で撮影した、現在の横浜の写真約10点を展示していました。収蔵品展示では、館がボランティアから預かっている戦時中の生活用品など展示していました。

Tel:045-896-2121 Fax:045-896-2299

<http://www.earthplaza.jp/>



## 神奈川大学日本常民文化研究所付置非文字資料研究センター:横浜市

第2回公開展示(本センター所蔵紙芝居企画)

「戦時下大衆メディアとしての紙芝居－国策紙芝居とはなにか」が神奈川大学横浜キャンパス図書館展示ホールで、2013年11月27日～12月11日の会期により開催されました。紙芝居は、絵巻物・のぞきからくり・うつし絵・無声映画の活弁など、く見ながら話を聞くという日本の視聴覚文化の伝統のもとにあるとされています。1950年代中盤以降、家庭へのテレビの普及にともない街頭から徐々に姿を消しましたが、戦前・戦後の興業ピーク時には、東京だけで1日に100万人の観客(子ども)を集めていたと言われています。しかしまた、新聞・ラジオ・映画と並ぶ教化性の高い大衆メディアであった紙芝居は、15年戦争に突き進んだ翼賛体制時代の言論統制下において、戦争プロパガンダの例外なき一翼を他のメディアと同じく担うこととなりました。この時期に制作された一連の印刷紙芝居は「国策紙芝居」と呼ばれますが、敗戦から占領に至る期間に多くが散逸しました。本センターが収集した「戦意高揚紙芝居コレクション」は、桜本富雄さんが所蔵していたもので、主に1941年から1944年の間に日本教育畫劇(1938年に結成された日本教育紙芝居協会の紙芝居出版

機関)から刊行されたものを中心とした241点によって構成されています。この度、整理が終了したことを機に、今後の研究資料としての活用方策を探るために開かれたものです。

関連して、第2回公開研究会が神奈川大学横浜キャンパス図書館視聴覚ホールで開かれ、桜本富雄さんの講演「国策紙芝居とはなにか」、公開座談会「戦意高揚紙芝居コレクションの位置づけを巡って」、戦意高揚紙芝居コレクションの概要の紹介、紙芝居実演などがありました。

Tel:045-481-5661 Fax:045-413-4151

[http://www.kanagawa-u.ac.jp/research/institute/japan\\_folk\\_culture/center/](http://www.kanagawa-u.ac.jp/research/institute/japan_folk_culture/center/)

## 神奈川県立近代美術館 葉山館:葉山町

「戦争／美術 1940-1950」展が2013年7月6日～10月14日の会期で開催されました。本展は、戦前から戦後の時代を1940年代という時間の経過で捉え、これまで分断されてきた戦前、戦後の日本の美術史を新たな文脈でとらえ直そうという展覧会です。館のコレクションの根幹を形成する松本竣介、朝井閑右衛門、麻生三郎、鳥海青児、山口蓬春などの戦前戦後をつなぐ作品や資料に新たな照明を当てるものです。

関連して、県立機関活用講座「戦争／美術」が7月27日、8月10日、8月24日、8月31日、9月7日の5回にわたって、美術評論、近現代史、写真史、近代文学史などの分野の専門家を講師に開かれました。

Tel:046-875-2800 Fax:046-875-2574

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp/public/HallTop.do>



## 平塚市博物館:神奈川

「平塚空襲展」が1階の寄贈品コーナーで2013年8月1日～9月5日の会期により開催されまし

た。平塚空襲の実態から復興までの流れを写真や実物資料で紹介していました。

平塚の空襲と戦災を記録する会編の空襲体験証言集『炎の証言』第15号が2013年4月1日に刊行されました。

Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

<http://www.hirahaku.jp/>



#### 愛川町郷土資料館:神奈川

企画展「戦争の記憶-戦後68年」が企画展示室とエントランスホールで2013年7月21日～8月31日の会期により開催されました。郷土資料館は過去2回、「戦争の記憶」と題する展示会を開催してきました。その結果、多くの資料が寄贈されました。今回は、ふるさとの先人たちが体験した戦争の悲惨さと、そこからの「復興」の歩みを見つめために、新たに寄贈された資料の紹介も兼ねて、「相模陸軍飛行場」「出征兵士」「銃後の守り」「復興への足音」の4コーナーを中心に展示していました。

Tel:046-280-1050

[http://www.town.aikawa.kanagawa.jp/shisetsu/cul/cul\\_01.html](http://www.town.aikawa.kanagawa.jp/shisetsu/cul/cul_01.html)

#### 日本新聞博物館:神奈川・横浜市

琉球新報創刊120年企画展「報道カメラマンが見た激動のOKINAWA42年」が2013年6月22日～8月18日の会期で開催されました。太平洋戦争で住民を巻き込んでの地上戦の場となった沖縄は、1972年に本土復帰を果たしました。しかしながら、さまざまな苦難を経て復帰を果たした今でも沖縄には巨大なアメリカ軍基地があり続け、それゆえにアメリカ軍機事故や犯罪などが繰り返されています。本写真展では、琉球新報社報道カメラマン・山城博明さんが42年にわたり撮り続けてきた復帰闘争をはじめとする沖縄の歴史や現状を紹介した写真など約200点を展示していました。

関連して講演会が7月13日と8月3日に開かれました。

Tel:045-661-2040 Fax:045-661-2029

<http://newspark.jp/newspark/>

#### 長岡戦災資料館:新潟

「長岡空襲体験画展」が2013年4月13日～5月19日と5月25日～6月30日に、「所蔵資料展」が2013年5月1日～12月29日に、「長岡空襲殉難者遺影展、住宅焼失地図展」が2013年7月7日～8月31日に、それぞれ開催されました。長岡空襲の体験を聞く会が2013年5月25日に開かれました。『語りつぐ長岡空襲-長岡戦災資料館開館十周年記念誌』が刊行され、長岡戦災資料館10周年記念講演会が2013年10月20日に開かれました。

Tel:0258-36-3269 Fax:0258-36-3335

<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/kurashi/sensai/siryokan.html>



#### 福井県立歴史博物館:福井市

写真展「福井空襲写真アルバム-日米に残された写真記録」が2013年8月16日～9月1日の会期で開催されました。旧日本軍の国防写真隊員川崎紀雄さんが福井空襲の惨状を記録し、このほど民家から見つかった写真アルバムを公開するものでした。アルバムの実物や川崎さんの顔写真入り「京都国防写真隊員証明書」の写し、1945年7月9日の夜間爆撃中のアメリカ軍爆撃機B29の白い機影、破損した福井神社の鳥居、焼夷弾で炎に包まれる市街地や大和百貨店など空爆中の写真や、がれきと化した市街地での配給や救護活動などの様子、被災した建物や人の写真パネル33枚が展示されました。アルバムには、福井空襲の記録写真37枚が収められています。このうち28枚は福井に駐留した旧アメリカ軍人が入手し、持ち帰った

「ケリー氏旧蔵写真コレクション」(同博物館所蔵)と一致しています。

Tel:0776-22-4675 Fax:0776-22-4694

<http://www.pref.fukui.jp/muse/Cul-Hist/>

#### 松本市立博物館・長野

特別展「戦争と平和展 特攻兵が飛び立つときー松本から知覧へ」が2階特別展示室で2013年7月6日～8月25日の会期により開催されました。2011年度の国連軍縮会議 in 松本を契機に毎夏開催している松本市歴史の里・松本まると博物館連携事業「戦争と平和展」の一環で、2013年は、陸軍松本飛行場に降り立ち、浅間温泉などで滞在した特攻隊の足跡や、特攻隊が来ることとなった当時の松本の様子など資料約100点を展示しました。ほかに、旧制高等学校記念館・山と自然博物館・窪田空穂記念館では企画展「北杜夫と松本」を開催しました。

Tel:0263-32-0133

<http://www.matsu-haku.com/maruhaku/index.html>



#### 岐阜市平和資料室・岐阜

特別展「子どもたちに伝える平和のための資料展」が2013年7月20日～8月2日の会期で開催されました。岐阜空襲の新たな写真などを展示していました。

Tel:058-268-1050

[http://gakuen.gifu-net.ed.jp/~contents/tyu\\_shyakai/jinbutu/sensou/siryousitu.htm](http://gakuen.gifu-net.ed.jp/~contents/tyu_shyakai/jinbutu/sensou/siryousitu.htm)

#### 静岡平和資料センター・静岡市

「戦時官製ポスター展」が2013年6月7日～8月11日の会期で開催されました。長野県下伊那郡阿智村に残されている国策宣伝のためのポスター

を借用して展示したものです。

アンコール企画「戦争と動物たち」が2013年8月15日～9月1日の会期で開催されました。

「シベリア抑留展ー凍土に消えた6万人の命ー」が2013年9月13日～2014年1月26日の会期で開催されました。改めて戦争の悲惨さ、平和の尊さに思いをはせるために、静岡市在住の海野幸正・山梨一夫・故小和田光さん(いずれも抑留体験者)の協力も得て、体験を物語る絵画や資料などを展示していました。

Tel&Fax:054-271-9004

<http://homepage2.nifty.com/shizuoka-heiwa/>

#### 焼津市歴史民俗資料館・静岡

企画展「戦時下の人々の暮らしー焼津と戦争」が2013年5月31日～9月29日の会期で開催されました。焼津における第2次世界大戦(太平洋戦争)の影響や戦時下の暮らしの様子、経済・物資の厳しい統制、金属類の供出など、当時の人びとに与えた戦争の影響を伝える写真や資料を、伝えられる戦況・戦時下の暮らし・子どもたちと戦争・焼津の徴用漁船のコーナーに分け展示していました。解説パンフレットと出品リストを作成しています。

Tel:054-629-6847 Fax:054-629-6848

<http://www.city.yaizu.lg.jp/rekimin/index.html>



#### 桜ヶ丘ミュージアム・愛知・豊川市

「豊川海軍工廠展」がミュージアム改装中のため、豊川文化会館展示室でパネルを主体として、2013年8月7日、9日～12日、14日～16日に開催されました。

Tel:0533-85-3775 Fax:0533-85-3776

<http://www.city.toyokawa.lg.jp/shisetsu/bunkakyoiku/sakuragaokamuseum/>

#### 四日市市立博物館：三重

学習支援展示Ⅱ「四日市空襲と戦時下の暮らし」が3階サルビアギャラリーで2013年6月15日～9月1日の会期により開催されました。小中学生の平和学習にあわせて、四日市空襲や戦時中の暮らしのようすを、実物資料や写真パネルなどで紹介するものです。空襲関係の被災遺品・絵・手紙・体験記、防空壕や焼夷弾の模型、防空関係資料、代用品、配給切符、婦人会関係資料、出征兵士関係資料、子どもや学校関係資料などを展示していました。

Tel:059-355-2700

<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum/>

#### 多気郷土資料館：三重

企画展「銃後の戦い—軍国の広告」が2013年7月9日～9月22日の会期で開催されました。帝国主義国家は植民地獲得に向け奔走し、国家間の争いは2度にわたる世界戦争を引き起こすこととなります。総力戦となった近代戦では直接戦場には行かない銃後の一般国民も戦争に巻き込まれ、戦争への協力を余儀なくされました。この企画展は戦時体制の中で作られたおもに1941～43年頃のチラシ・パンフレットなどの広告宣伝用の印刷物、雑誌・新聞の広告欄、旅行案内など約150点を展示して、最悪の耐乏生活に至る直前の娯楽が統制されていた時代を中心に考察する展示会でした。国策に沿って戦意高揚を図るため新しい言葉が作られ、多くの国策標語が巷に氾濫するようになった時代でした。戦時色が強まった1937年、大政翼賛会につながる国民精神総動員運動が始まると、国民生活のすべてが統制されました。戦争遂行に必要な体力や愛国心を養う心身鍛錬のためハイキングや徒歩旅行が、また日本精神の涵養に役立つとして史蹟や名勝への旅行が推奨されています。映画や音楽などの娯楽の統制もおこなわれ、戦意高揚の手段として利用されました。戦争への

協力を促す国策映画が次つぎと作られ、戦意を高める軍歌や軍国歌謡が流行しました。しかし、さまざまな統制があったとは言え、この後に続く物資不足で紙も無い、映画を作るフィルムも無い、それよりも毎日の食糧にも事欠くといった窮乏の時代に比べれば、かろうじて娯楽が存在した平穏な時代だったといえるでしょう。

Tel:0598-38-1132

[http://www.town.taki.mie.jp/contents\\_detail.php?co=kak&frmId=183](http://www.town.taki.mie.jp/contents_detail.php?co=kak&frmId=183)



#### 滋賀県平和祈念館：東近江市

第5回企画展示「学童疎開のモノ語り—大阪から子どもたちがやってきた！」が2013年6月29日～9月29日の会期で開催されました。今回の企画展は、大阪市内から今の小学3年生から6年生までの子どもたちが戦火を逃れて滋賀県各地に学童疎開にやってきて、家族と離れて集団生活を余儀なくされましたが、疎開先での生活や学業の様子を、当時の絵日記、手紙、児童名簿、アルバム、道具や玩具などや、受け入れた滋賀の人びとの体験と資料を展示しました。

第6回企画展示「滋賀で学ぶ戦争の記録」が2013年10月5日～12月23日の会期で開催されました。内容は15年にわたる戦争、戦争と生活の変化、子どもたちと戦争、滋賀県への空襲、戦争の終わり、子どもたちが伝える戦時の出来事などでした。

小学4年生から6年生および中学生を対象にした、夏休みミュージアム・スクール「へいわの学校・あかり」を、2013年7月28日から8月31日にかけての6日間に開校しました。滋賀県の戦争について学ぶことはもちろん、体験者の話を聞いたり、戦時中に食べた食事を作る体験活動もしました。

戦争体験者お話会が2013年8月15日に開かれました。



Tel:0749-46-0300 Fax:0749-46-0350  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/heiwa/heiwamuseum/>



### 大津市歴史博物館：滋賀

第107回ミニ企画展「戦時下の大津」が2013年8月13日～9月8日の会期で開催されました。琵琶湖と緑の山々に囲まれた風光明媚な大津にも、戦争は暗い陰を落としていました。今回は、かつて大津にあった陸海軍の軍事施設や戦時下の市民生活を、資料と写真によって紹介し、あらためて平和について考えるものでした。

Tel:077-521-2100  
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>

### 浅井歴史民俗資料館：滋賀

企画展「第11回終戦記念展 一兵士がつづった「ノモンハン事件」」が2013年7月30日～9月16日の会期で開催されました。ノモンハンで戦死した兵士・野村善一さんの焼け焦げた従軍手帳が昨年の終戦記念展の時に提供されました。野村善一さんの従軍手帳と手紙、アルバム、家族写真などを展示していました。関係書簡の書き起こしに、仏教大学の原田敬一さんとゼミの学生が協力しています。

Tel:0749-74-0101 Fax:0749-74-0101  
<http://www.city.nagahama.shiga.jp/section/azairekimin/>



### 栗東歴史民俗博物館

特集展示「平和のいしずえ 2013ーくらしのなかの戦争」が第2展示室で2013年7月27日～9月1日の会期により開催されました。民俗博物館は栗東市の「心をつなぐふるさと栗東」平和都市宣言を受け、毎年戦争と平和をテーマにする「平和

のいしずえ」展を開催しています。市内外の所蔵者の方がたから提供された資料を通じ、近代以降の戦争の歴史と戦時下の生活を再現することで、地域の視点から平和について考えてきました。2013年度は、従軍の後、凱旋や満期除隊となった際、親類や知人、近隣の人びとに贈られた記念品を中心に、軍服、出征を祝うのぼり、金属がない時代に使われた紙製の洗面器、戦況詳報を売りに新聞購読を呼び掛ける広告など約130点を展示していました。贈られた記念品の多くは「凱旋記念」や「退営記念」、「満期記念」などの文言が記された徳利や盃です。また、陸軍、海軍を示す旭日旗や星章、桜、錨などの図柄も付されています。現在では見慣れないこうしたデザインの道具類が、太平洋戦争終戦以前には、人びとの日常の暮らしのなかに溶け込んで使用されていました。スポット展示でのテーマは「アジア・太平洋戦争と報国運動」で産業報国会の旗などを展示していました。今回の平和のいしずえ展では、このような戦時下もしくはそれに準じた時代に、日常生活を覆っていた空気を感じ取っていただき、現在との相違を考え、平和の大切さをいま一度認識してもらう機会とするために開かれました。図録を作成していますが、印刷ではなく、ウェブ上の公開でした。出品目録も作成しています。

Tel:077-554-2733 Fax:077-554-2755  
<http://www2.city.ritto.shiga.jp/hakubutsukan/>

### 京都大学大学文書館：京都市

企画展「戦時期の京大ー「学徒出陣」70年」が京都大学百周年時計台記念館1階歴史展示室で2013年11月12日～2014年1月19日の会期により開催されました。京大からも「学徒出陣」で多くの若者が、戦場に向かいました。今回の企画展では、その「学徒出陣」を取り上げるとともに、戦時期の京大について、さまざまな資料をもとに、

その実相を探っていました。

Tel:075-753-2651 Fax:075-753-2025

<http://kual.archives.kyoto-u.ac.jp/ja/>

### 大山崎町歴史資料館

第15回「平和のいしずえ展」が2013年8月6日～25日の会期により開催されました。双六、朝鮮の都市の案内書など戦前や戦中の資料を展示し、アジア太平洋戦争を振り返り、平和の尊さを考えるものでした。

Tel:075-952-6288

<http://www.town.oyamazaki.kyoto.jp/>



### 向日市文化資料館

夏のミニ展示「くらしのなかの戦争ー近代の震災と戦争」展が2013年8月10日～9月8日の会期により開催されました。資料館では毎夏、戦争の悲惨さと平和の尊さを知ってもらうために、戦争に関する資料の展示をしてきました。今年も灯火管制用電球カバー、時局防空必携、警鐘信号表、防空演習関係綴、防空頭巾など市民の方から寄せられた資料を中心に、所蔵資料を展示していました。1923年9月1日の関東大震災から90年にあたる今年は、地震など災害にまつわる、関東大震災の絵はがきや画報、濃尾地震の日誌、サンフランシスコ地震の日誌、但馬地震の災害義援金名簿、北丹後地震の災害義援金名簿などの資料も展示していました。身近な地域のくらしにも影響を与えた戦争や災害を、展示品を通して振り返り、あらためて考えるきっかけにするために開かれたものです。解説パンフレットを作成しています。

関連して、日曜談話会「戦争・災害とまちのくらし」が2013年8月18日に開かれました。これは文化資料館の職員が、日頃の展示準備や資料調査の中からテーマを選んで、参加者とともに掘り

下げていくものです。今回は、夏のミニ展示に合わせ、戦争や災害などの非常時に人びとがどのように考え行動したのか、残された資料から考えるものでした。

Tel:075-931-1182

<http://www.city.muko.kyoto.jp/shisetsu/shiryokan.html>

### 南丹市日吉町郷土資料館

「戦争と南丹市ー残された記録」が2013年8月3日～9月23日の会期で開催されました。関連して、体験講座「戦時中の生活体験」が2013年8月24日に開かれました。

Tel&Fax:0771-72-1130

<http://www.be.city.nantan.kyoto.jp/hiyoshi-shiryokan/>



### ピースおおさか 大阪国際平和センター:大阪市

「ピースおおさか収蔵品展Ⅳ」が2013年4月16日～6月30日に、「ピースおおさか収蔵品展Ⅴ」が2013年7月16日～10月に、「ピースおおさか収蔵品展Ⅵ」が2013年10月29日～12月27日に、それぞれ特別展示室で開催されました。

終戦の日 平和祈念事業「講演会と歌で検証する「戦争」と「平和」ー日越外交関係樹立40周年記念事業」が講堂で2013年8月4日に開かれ、講演と歌がありました。戦争犠牲者追悼式 平和コンサートが講堂で2013年8月15日に開かれました。

開館の日 平和祈念事業シンポジウム「京都・神戸・大阪ー三都空襲の悲劇と実態」が講堂で2013年9月15日に開かれ、空襲体験者らが講演しました。

展示リニューアル「基本設計」が2013年11月27日にできあがり、公表されました。

Tel:06-6947-7208 Fax:06-6943-6080

<http://www.peace-osaka.or.jp/>

### 堺市平和と人権資料館:大阪

企画展示「第3回「自由都市・堺 平和貢献賞」受賞者パネル展」が企画展示コーナーで2013年4月2日～6月29日の会期により開催されました。国際協力や平和貢献活動に対する理解と認識を深めるために、国際的な平和貢献活動をおこなった個人や団体を表彰する「自由都市・堺 平和貢献賞」の第3回受賞者の方やその活動を紹介するパネル展示でした。

企画展示「原爆パネル展－広島・長崎」が企画展示コーナーで2013年7月2日～9月29日の会期により開催されました。核兵器の惨禍、恐ろしさを理解し、戦争の悲惨さや平和の尊さを考えるために広島・長崎の原爆被害の写真パネルを展示するものでした。

企画展示「沖縄戦とひめゆり学徒」が企画展示コーナーで2013年10月2日～12月28日の会期により開催されました。太平洋戦争末期の1945年3月23日、アメリカ軍は沖縄への上陸作戦を開始しました。圧倒的な戦力で空襲、艦砲射撃に加え、住民を巻き込んだ想像を絶する悲惨な地上戦がおこなわれ、20万余の尊い命が失われました。そして、戦場で最も被害をこうむったのは沖縄で生活している一般住民でした。この企画展では、看護要員として沖縄陸軍病院へ動員された「ひめゆり学徒隊」に関する写真をはじめ、過酷な沖縄戦の写真を展示することによって、戦争の悲惨さ、平和の尊さ、命の大切さについて考えるために開いたものです。

Tel:072-270-8150 Fax:072-270-8159  
[http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/\\_jinken/](http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_jinken/)



### 吹田市立平和祈念資料館:大阪

企画展「アンネ・フランクと希望のバラ」が2013年7月23日～8月25日の会期で開催されました。広島で被爆した少女まちよの目を通して、アンネ

とアンネの生きた時代を分かりやすく伝えるパネルが展示されました。

Tel:06-6873-7793 Fax:06-6873-7796  
[http://www.city.suita.osaka.jp/home/soshiki/div-jinken/jinken/\\_56228.html](http://www.city.suita.osaka.jp/home/soshiki/div-jinken/jinken/_56228.html)

### 枚方市平和資料室:大阪

「アンネ・フランク展」が2013年8月10日～20日の会期で開催されました。今回の特別展は、アンネ・フランクと、アンネの父オットー・フランクさんから受け継いだ「アンネのバラ（アンネをイメージして作られたバラで、日本で初めて開花してから今年で40周年を迎える）」をテーマに、アンネが隠れ家にいた約2年間の様子を日記とその時の戦況が分かるパネル30点と、アンネ・フランクが潜んでいた隠れ家の模型を中心に展示しました。兵庫県西宮市にあるアンネ・フランク資料館の協力をえて、同館所蔵の資料を展示していました。

関連して、講演会が2013年8月10日に、アンネ・フランク資料館館長の坂本誠治牧師を講師に開かれました。

Tel:072-841-1221 Fax:072-841-3039  
<http://www.city.hirakata.osaka.jp/>

### 寝屋川市立総合センター平和祈念戦争資料展示コーナー:大阪

「戦争資料コーナー新収蔵品展」が2013年7月30日～8月16日の会期で開催されました。

Tel:072-824-1181 Fax:072-825-2638  
<http://www.city.neyagawa.osaka.jp/>

### 箕面市立郷土資料館:大阪

企画展示「戦時生活資料展」が2013年8月2日～9月2日の会期で開催されました。市民から寄

贈された戦争中の暮らしに関する資料を、戦時中の生活の苦しさを伝え、平和の大切さを訴えるために毎年展示しており、2013 年は 24 回目です。配給券、米つき、灯火管制具、木製の放水筒・竜吐水、防火砂弾、防空頭巾、戦時中の教科書・雑誌など、45 点の資料が展示されました。仏教大学、甲南大学、甲子園大学の学芸員実習生が展示品の選定、レイアウトなどをおこないました。

Tel:072-723-2235 Fax:072-724-9694

<http://www.city.minoh.lg.jp/kyoudo/kikakutenji>.

### 小林一三記念館:大阪・池田市

第 10 回特集展示「戦災復興院総裁 小林一三が描いた戦後大阪一都市構想の夢」が 2013 年 4 月 6 日～9 月 16 日の会期で開催されました。太平洋戦争の空襲によって、日本全国の主要都市は壊滅的な被害を受けました。展示では、小林一三が描いた戦後復興とはどのようなものであったか、特に大阪市の将来像に対する構想を紹介していました。

関連して、記念講演会が 2013 年 9 月 8 日に開かれ、日本経済新聞社社会部編集委員の井上亮さんが「小林一三、都市再生の夢と挫折」と題して講演しました。

Tel:072-751-3865 FAX:072-751-2427

<http://www.hankyu-bunka.or.jp/sys/info/article/58>



### 神戸市立中央図書館:兵庫

「戦災関連資料展」が 2013 年 8 月 13 日～18 日の会期で開催されました。神戸市は、平和に関する事業として、2008 年から資料の散逸を防ぐため、戦災関連資料や戦争体験談などの収集の呼びかけるとともに、インターネット上で「神戸 災害と戦災 資料館」のホームページを公開しています。

ホームページで「見る」だけでなく、実際に「実物を見る」機会を設け、「命の大切さ」と「平和の尊さ」を考えるきっかけになることを目的として、「戦災関連資料展」が開かれました。神戸空襲に関するものを中心に、市民などから神戸市に寄贈をされた、焼夷弾の破片・防毒マス・有価証券類などの戦災関連資料約 50 点と、神戸空襲に関するパネル約 20 点、および神戸を舞台に、第 2 次世界大戦の時代を生きた家族を描いた小説「少年 H」の映画で使用された衣装と映画のワンシーンのパネルが展示されました。

Tel:078-371-3351 Fax:078-371-5046

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/institution/institution/library/top/index.html>



### 姫路市平和資料館:兵庫

春季企画展「戦時下の学園」が 2 階展示室で 2013 年 4 月 13 日から 7 月 7 日の会期により開催されました。戦時下の過酷な状況の中で学校生活を送らざるをえなかった学生たちの姿を当時の学生の手記や戦災を免れた資料約 100 点と写真約 30 点で伝えるもので、「戦前・戦中の学制の変遷」「戦前・戦中の姫路市内の旧制中学校」「女学校と女学生」「決戦体制下の学園生活」「中学生の勤労奉仕隊」「姫路空襲による校舎焼失」「戦後の男女共学の新高校スタート」「姫路の旧制中等教育を受けた著名人」のコーナーに分けて展示していました。

関連して、2013 年 5 月 5 日には姫路空襲体験記朗読会が、2013 年 6 月 23 日には姫路空襲体験談を聞く会が開かれました。

「非核平和展」が 2 階展示室で 2013 年 7 月 13 日～8 月 31 日の会期により開催されました。姫路市は、1985 年 3 月 6 日の「非核平和都市宣言」以来、その趣旨を広く市民にアピールするとともに、非核平和について考える機会を提供するため、1986 年度から「非核平和展」を毎年開催していま

す。被爆資料 32 点、被爆写真などのパネル 75 点、姫路市児童・生徒の平和への思いを描いた絵画・書道作品 197 点、県立姫路工業高校デザイン科生徒の絵画作品 29 点などが展示されました。

関連して 2013 年 8 月 11 日に姫路市児童合唱団出演による平和を共に歌うコンサートが、8 月 15 日に被爆体験談を聞く会が、それぞれ開かれました。

秋季企画展「戦時下の芸術活動」が 2 階展示室で 2013 年 10 月 5 日～12 月 23 日の会期により開催されました。太平洋戦争の戦時下において人びとの芸術・文化活動がいかにおこなわれ、どのような変遷を辿ったのかを、主に美術と文学に重点を置いて、特に姫路市ゆかりの美術家・杉全直、兵庫県出身の美術家で戦争画を描かずに戦地へと向かい終戦間際に行方不明となった浅原清隆、哲学者の和辻哲郎、小説家として売れっ子だった安部知二、戦後派の椎名麟蔵らの写真資料や実物資料、さらに大衆の芸術活動の資料や戦場からの短歌も展示していました。展示資料点数は写真資料が約 50 点、実物資料が約 100 点でした。

関連して 2013 年 10 月 27 日に姫路空襲体験談を聞く会が開かれました。

Tel: 079-291-2525 Fax: 079-291-2526

<http://www.city.himeji.lg.jp/heiwasiryu/>

### 奈良県立民俗博物館：大和郡山市

「戦時下のくらし」展が 2013 年 8 月 3 日～9 月 1 日の会期で開催されました。千人針、絵本「日ノ丸バンザイ」、竹やり、戦争中の衣服、防毒マスク、防空警報板など 40 点が展示されました。

Tel: 0743-53-3171 Fax: 0743-53-3173

<http://www.pref.nara.jp/1508.htm>

### 奈良県立図書館：奈良市

戦争体験文庫企画展示「かるたで読む「戦陣訓」」が 2013 年 3 月 30 日～6 月 27 日の会期で開催され

ました。捕虜となることを忌避する、「生きて虜囚の辱めを受けず」の語句とともに記憶されている「戦陣訓」ですが、もともとは、一般的な軍規肅正のために公布されたものでした。1943 年の公布当時、戦陣訓は広く国民一般が学ぶべきものとして、多くの解説書や関連商品が販売されました。そのひとつ「戦陣訓かるた」をとりあげて、その世界に迫る展示でした。

戦争体験文庫夏季企画展示「小学生国史受験かるたの世界」が 2013 年 6 月 29 日～2013 年 8 月 29 日の会期で開催されました。中学受験準備のため、神武天皇即位紀元(皇紀)などによる年代暗記用に作成された「小学生国史受験かるた」を題材に、昭和戦前期の歴史教育について考える展示会でした。

戦争体験文庫企画展示「大淀町学校支援地域本部戦争カルタの世界」が 2013 年 10 月 3 日～12 月 27 日の会期で開催されました。戦争のときの具体的な生活や様子を知ってもらい、戦争の悲惨さを次の世代に伝えたい、そんな思いで作られた「戦争カルタ」が、20102 年に大淀町学校支援地域本部から図書館に寄贈されました。「かるたを読む」シリーズの第 3 弾として、この「戦争カルタ」を取り上げ、後世から振り返ってみた戦争について考える展示会でした。

Tel: 0742-34-2111 Fax: 0742-34-2777

<http://www.library.pref.nara.jp/sentai/kikaku.html>



### 日南町美術館：鳥取

「戦争の記憶－戦没画学生の遺作から 小早川秋聲の戦争画まで」が 2013 年 8 月 9 日～10 月 6 日の会期で開催されました。戦没画学生慰霊美術館「無言館」が所蔵する、戦争で亡くなった画学生の遺作品 42 点と複製画 5 点と、画学生たちが戦地から家族に宛てた手紙やハガキ、描き残したスケッチなどの遺品 87 点を展示しました。日南町美

術館が所蔵する、郷土出身の日本画家、小早川秋聲は、日本を代表する従軍画家として多くの戦争画を描きました。その代表作である『国之楯』をはじめとする戦争画と従軍絵はがき、戦争画制作や従軍体験について記述した文献資料なども展示し、秋聲がみた戦争も紹介していました。

関連して、窪島誠一郎無言館館主の講演会が2013年8月10日に開かれ、演劇「八月の青い空」も上演されました。

Tel:0859-77-1113 Fax:0859-77-1115

<http://culture.town.nichinan.tottori.jp/bijyutukan/bijyutukan.top.html.htm>

### 倉吉博物館・倉吉歴史民俗資料館：鳥取

貸館展「水木しげるの戦争と新聞報道」展が倉吉博物館第4展示室で、2013年7月13日～24日の会期により開催されました。主催はとっとり梨の花温泉郷広域観光協議会です。南方の激戦地・ニューブリテン島に送られ、最前線で生き抜いた一兵士、漫画家の水木しげるさんが戦争をテーマに描いた作品と当時の新聞報道を展示していました。

Tel:0858-22-4409 Fax:0858-22-4415

<http://www1.city.kurayoshi.lg.jp/hakubutsu/>

### 岡山シティミュージアム：岡山

第36回「岡山戦災の記録と写真展」が4階展示室で2013年6月14日～7月7日の会期により開催されました。激しくなる戦争のなか、岡山の子どもたちにも戦争への協力が求められました。戦時中の国民学校の生徒達の図画には戦時下の空気が反映されています。また、物資不足の中、ランドセルや学用品、衣類なども粗悪な代用品となり、学校の授業にも将来兵士となるための教練や、本土決戦に備えた竹槍訓練などが導入されていきます。岡山市では、例年岡山空襲に関する「岡山戦

災の記録と写真展」を開催し、今年で36回目を迎えます。また、2012年10月には岡山空襲の記憶を忘れることなく、未来へうけつぐための常設展示施設として岡山空襲展示室が岡山シティミュージアム5階に開室されました。岡山空襲展示室の開室後、初めての特別展を迎える2013年は、戦時下の岡山の子どもたちに焦点をあてた展覧会を開催しました。

関連して、記念講演会が2013年6月15日に4階講義室で開かれ、東京大空襲・戦災資料センター主任研究員山辺昌彦さんが、「空襲の写真記録 - 東方社と国防写真隊の資料について」と題して講演しました。同じく2013年6月15日に、「第5回岡山市平和コンサートー愛と平和の歌」が2階ひかりの広場で開かれました。

Tel:086-898-3000 Fax:086-898-3003

<http://www.city.okayama.jp/okayama-city-museum/index.html>



### 広島平和記念資料館：広島市

2013年度企画展「はだしのゲン原画展ー生きて生きて生きぬいて」が、東館地下1階展示室(5)で2013年7月19日～9月1日の会期により開催されました。「はだしのゲン」は、広島市出身の漫画家中沢啓治さんによる作者自身の被爆体験をもとにした漫画です。作者の分身である主人公岡元(ゲン)が、原爆で家族を失いながらも、戦後をたくましく生き抜いていく姿が描かれています。2013年は、「週刊少年ジャンプ」で「はだしのゲン」の連載が始まってから40年を迎える年となります。今回の展示会では、ゲンやその家族、仲間たちの、明るさ、強さ、やさしさ、原爆・戦争への怒り、前向きに生き抜く勇気を皆さんに感じ取ってもらうため、平和記念資料館が所蔵する「はだしのゲン」の原画、「はだしのゲン」第2部下書き、「はだしのゲン自伝」挿絵原画などの現物資料66点、複製資料4点、パネルなど30点、映

像 1 点を展示していました。

Tel:082-241-4004 Fax:082-542-7941

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/>



### 広島市立中央図書館：広島

企画展「こどもたちの見たヒロシマ」が 2 階展示ホールで 2013 年 7 月 20 日～9 月 1 日の会期により開催されました。原爆により、多くの市民が犠牲となり、その中にはたくさんの子どもたちも含まれていました。子どもたちが書いた原爆体験記をはじめ、学徒動員、学童疎開など当時の子どもたちが置かれていた状況について書かれた資料、広島市立広島商業高等学校の「広島市商ピースデパート」で制作したモニュメント、同校と長崎市立長崎商業高等学校との平和への願いを込めた取り組みの紹介の資料、今年が連載開始から 40 周年にあたる「はだしのゲン」の原画（複製）や外国語版コミックスなどが展示されました。展示資料目録を作成しています。

関連して、2013 年 8 月 3 日に開かれた講演会「次の世代に伝えたいこと」では、前広島平和記念資料館館長の前田耕一郎さんが「はだしのゲン」の作者故中沢啓治さんとの思い出や、広島平和記念資料館などでの仕事を通じて感じてこられた「原爆」や「平和」についての思いを話しました。

Tel:082-222-5542 Fax:082-222-5545

<http://www.library.city.hiroshima.jp/>

### 福山市人権平和資料館：広島

企画展「はだしのゲン」が 2013 年 8 月 3 日～31 日の会期により開催されました。広島平和記念資料館に寄贈された原画の複製を、中沢さんをしのんで展示しました。

Tel:084-924-6789 Fax:084-24-6850

<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/jinken/heiwashiryokan/>



### 多度津町立資料館

夏季企画展「戦争資料展 2013」が 1 階の展示室で 2013 年 8 月 1 日～31 日の会期により開催されました。戦争資料展は、戦争の悲惨さや愚かさを伝え、平和の尊さを考える機会にしてもらおうと、資料館が毎年 8 月に開催しています。調味料や衣料の配給を受けるための購入票、金属供出による代用品として使われていた陶器の湯たんぽ・貝殻の鍋・紙製のヘルメット、旧制多度津中学の先生が出征する教え子の武運長久を願い作った日章旗の寄せ書き、前線の兵士を励ますために菓子や人形などを入れて贈った「慰問袋」、シベリアに抑留された同町内の男性の引揚証明書、学童疎開の状況を伝える資料など、町民から寄贈された約 200 点が展示されました。

2013 年 8 月 17 日には、県歴史教育者協議会の石井雍大会長が「一太郎やあいーなぜ国定教科書に掲載されたか」と題して講演し、すいとんの試食会も開かれました。

Tel&Fax:0877-33-3343

<http://tkamada.web.fc2.com/shiryokan/kikaku/indexkikaku.htm>



### 碓井平和祈念館：福岡・嘉麻市

「子どもたちと戦争」展が 2013 年 7 月 20 日～9 月 1 日の会期で開催されました。戦時中の子どもたちの教育や遊び、暮らしぶりなど、子どもにまつわる戦時資料を展示していました。

関連して「語り、伝える 戦争の話」が 2013 年 8 月 3 日に開かれ、3 名の戦争体験者が当時の体験を語りました。

Tel:0948-57-3176

[http://www.city.kama.lg.jp/info/prev.asp?fol\\_id=4070](http://www.city.kama.lg.jp/info/prev.asp?fol_id=4070)

### 兵士・庶民の戦争資料館：福岡・小竹町

「不戦の思想展」が 2013 年 5 月 3 日～31 日の会期で開催されました。旧日本陸軍の中将で、戦後は非武装や護憲を訴えた遠藤三郎さん（1893～1984）の半生を紹介するもので、遠藤さんの新聞寄稿や日中戦争の体験を振り返った著作など約 30 点が展示されました。

企画展「海軍兵曹長鬼木勝治と海軍一等兵治部田泉の戦争」が 2013 年 8 月 9 日～9 月 10 日の会期で開催されました。倉庫に保管していた元海軍兵 2 人の両親に宛てた遺書、満州国建国功労章証、寒稽古皆勤証などの資料約 140 点が初公開されました。

Tel:09496-2-8565



### 福岡市博物館：福岡

「戦争とわたしたちの暮らし 22」が企画展示室 1 で 2013 年 6 月 11 日～8 月 18 日の会期により開催されました。6 月 19 日の「福岡大空襲の日」の前後に、館蔵の戦時関係資料を展示するシリーズの 22 回目です。今回は映画ポスター、レコード、紙芝居など、戦時下の娯楽を紹介していました。これらの娯楽は、聴覚、視覚により聴衆に訴えかける特徴があります。国家は、この特徴を利用し、検閲を介して娯楽に国家の政策や国民へのメッセージを伝える役割をになわせました。戦時の娯楽にふれることで、戦時の生活を考えるきっかけとするために開かれました。

Tel:092-845-5011 Fax:092-845-5019

<http://museum.city.fukuoka.jp/>

### 大牟田市立 三池カルタ・歴史資料館：福岡

「平和展 2013 戦中・戦後の教科書とカルタ」が 2013 年 7 月 2 日～2013 年 9 月 23 日の会期で開催されました。カルタも教科書と同じように、それぞれの時代の世相を映し出したものが多い

ます。今回の企画展では、おもに戦時中から戦後にかけて時代の波にほんろうされ、変化していく教科書を中心に展示しました。教科書の今と昔の違いをみることで、「戦争」と「平和」について、あらためて考えるために開かれました。

Tel&Fax:0944-53-8780

<http://三池カルタ・歴史.com/>

### いのちのたび博物館：福岡・北九州市

「北九州の空襲」展が 3 階テーマ館「明治時代以降の北九州」で 2013 年 7 月 1 日から開催されました。1944 年 8 月 20 日の空襲を描いた「8・20 対空戦の図」など、北九州市の空襲を描いた絵画を展示していました。

Tel:093-681-1011 Fax:093-661-7503

<http://www.kmnh.jp/>



### 長崎原爆資料館：長崎

2013 年度第 1 回企画展「原爆資料館収蔵資料展」が地下 2 階の企画展示室で 2013 年 7 月 10 日～8 月 28 日の会期により開催されました。原爆資料館は、1955 年に前身の長崎国際文化会館が開館以来、1000 人を超える方がたから資料が寄贈されています。寄贈資料や遺品は、爆心地近くから収集されたものや、被爆者のかたみなどです。資料を寄贈するまでに、いろいろな思いをもって、大切に保管されていたものです。寄贈にいたる思いも含めて、長く継承していかなければならないものです。本展は、2012 年 7 月から 2013 年 6 月までの間に寄贈された全資料を展示していました。これら新規寄贈品の背景などを紹介するために、収蔵関連資料をあわせて展示していました。

2013 年度第 2 回企画展「「復興・長崎」―被爆から 6 年後の旅」が地下 2 階の企画展示室で 2013 年 9 月 5 日～2014 年 1 月 30 日の会期により開催されました。この展示は、原爆投下から 6 年経っ



た 1951 年に、長崎を旅行した池田秀さんのアルバムをもとに企画したものです。池田秀さんは 1889 年生まれで、写真を撮影した当時、62 歳でした。池田さんの長男が長崎医科大学を卒業し、長崎で開業していた関係で、原爆投下後、長崎の惨状を描き残そうと、1947 年と 1951 年の 2 回にわたり長崎を訪れました。写真は全て 1951 年の 8 月 6 日から 22 日にかけて撮影されたもので、被爆から 6 年経った長崎の街並みを切り取った貴重なものです。写真アルバム 1 ページの浦上天主堂のアンゼラスの鐘から始まり 10 ページまで浦上天主堂を中心に浦上地区の風景が続きます。被爆地長崎のイメージと被爆した旧・浦上天主堂の廃墟が深く結びついていることがわかります。14 ページ以降は、シーボルト宅跡や活水学院、大浦天主堂や諏訪神社などを観光した記録となっています。この記録は、被爆から 6 年経った長崎の街並みを写した貴重な記録であるとともに、当時の旅行者が、どのような場所を回ったのか、どのような本を読んでいたのか、どのような感想を持ったのか、を教えてくれる資料でもあります。

Tel:095-844-1231 Fax:095-846-5170

<http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/peace/>

### 長崎市歴史民俗資料館:長崎

「戦時中のくらし展」が 2013 年 6 月 20 日～8 月 25 日の会期で開催されました。1937 年の日中戦争勃発以降、第 2 次世界大戦へと向かい日本は戦時体制へと突入していきました。長崎は、1945 年 8 月 9 日に原子爆弾が投下され、約 24 万人の市民の半数以上が死傷するという悲惨な被害を受けました。その当時、人びとはさまざまな統制を強いられ、「ほしがりません勝つまでは」と質素、倹約のくらしをしなければならませんでした。日常生活に必要な物も手に入りにくく代用品や代用食がさかんにつくられました。現在の豊かな生活と対比し、平和の尊さを考える機会として開かれた

ものです。紙芝居・戦時郵便貯金切手・戦時貯蓄債券・食器・紙幣・切手・葉書・教科書・消火弾・防砂袋・防護団の記章・防空頭巾・戦争の図柄が描かれた産衣・もんぺ・陶器製ほうろく・供出された半鐘・千人針・恩賜の煙草・軍用手票など約 150 点が展示されました。

Tel&Fax:095-847-9245

<http://www.nagasaki-city.ed.jp/siryokan/>

### 宇佐市平和資料館、開館:大分

宇佐市平和資料館が宇佐市大字閣 440 番地の 5 に 2013 年 6 月 29 日に開館しました。宇佐海軍航空隊は 1939 年 10 月 1 日に、実戦訓練をおこなう航空隊として開隊しました。しかし、アメリカ軍の空襲を受けるようになった太平洋戦争末期には特別攻撃隊の基地となり、多くの若者が南の空に飛び立っていきました。市内には、城井 1 号掩体壕をはじめ、空襲の痕が残る落下傘整備所や爆弾池など、多数の戦争遺跡が現在も残っており、戦争の悲惨さを伝えています。宇佐市平和資料館は、命の尊さや平和の大切さを学ぶ場として、宇佐海軍航空隊の歴史や宇佐への空襲、宇佐から出撃した特別攻撃隊、市内の戦争遺跡について展示しています。加えて、実物大の零戦 21 型模型を使って、当時の戦闘機の大きさなどを肌で感じられる展示もしています。

Tel&Fax:0978-33-1338

<http://www.city.usa.oita.jp/soshiki/43/10964.html>



### 薩摩川内歴史資料館:鹿児島

ミニ企画 終戦記念展示コーナー「終戦から戦後の復興」が 2013 年 7 月 30 日～9 月 29 日の会期により開催されました。

Tel:0996-20-2344 Fax:0996-20-2848

<http://rekishi.satsumasendai.jp/index2.htm>

### 沖縄県平和祈念資料館：糸満市

2013 年度第 1 回子ども・プロセス企画展「戦争と教科書」が 2013 年 6 月 3 日～7 月 7 日の会期により開催されました。戦時中の日本が子どもたちにどのような教育をしたのかを展示していました。

企画展「新収蔵品展—平成 23 年度・24 年度新収蔵資料」が 1 階 企画展示室で 2013 年 6 月 13 日～7 月 31 日の会期により開催されました。寄贈者への「お礼と感謝」の気持ちを表すとともに、新たに収蔵された県民財産を公開する機会とするために開かれました。

第 14 回特別企画展「ハワイ日系人が見た戦争（イクサ）と沖縄（ウチナー）」が 1 階 企画展示室で 2013 年 10 月 10 日～12 月 11 日の会期により開催されました。沖縄戦を中心に戦前・戦中・戦後と日米の双方に深くかかわったハワイウチナーウンチュ（沖縄出身）移民の ウムイ（想い）を取り上げ、実物資料や写真パネルの展示、ビデオ上映などより、二度と戦争を起こさない平和を愛する「沖縄の心」を発信する企画展でした。

Tel:098-997-3844 Fax:098-997-3947

<http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp/>



### 対馬丸記念館：沖縄・那覇市

第 20 回対馬丸記念会特別展示「戦争と動物たち」が 2013 年 8 月 10 日～9 月 10 日の会期により開催されました。ゾウを守った東山動物園、戦時下の動物たち、戦後沖縄にも動物たちがやってきた、などについて展示していました。

Tel:098-941-3515 Fax:098-863-3683

<http://www.tsushimamaru.or.jp/>

### 那覇市歴史博物館：沖縄

「沖縄戦—そして学校がなくなった」が 2013 年 6 月 8 日～7 月 3 日の会期で開催されました。

2012 年 12 月に、戦後初めて那覇市の小学校廃校が決定されました。かつて旧那覇市には、那覇 8 校と呼ばれるそれぞれに特色をもった尋常小学校（1941 年に国民学校に改称）がありました。しかし、1945 年の沖縄戦により多くの小学校・高等学校が自然廃校となりました。今回の企画展では、戦前の那覇市内の小学校を中心に、学校の設立や学校行事などを紹介するとともに、沖縄戦による学校廃校の歴史を展示していました。

Tel:098-869-5266 Fax:098-869-5267

<http://www.rekishu-archive.city.naha.okinawa.jp/>



### うるま市立石川歴史民俗資料館：沖縄

「平和資料展 うるま市の戦争（イクサ）—激動の時代の教育とたくましく生きた子どもたち」が 2013 年 6 月 21 日～30 日の会期で開催されました。沖縄県内でアメリカ軍上陸後ほどなく、学校教育が再開されたうるま市。廃藩置県以後から戦時中にかけて、うるま市における教育の変遷をたどりながら、時代に翻弄された子どもや家族、住民たちの様子をたどっていました。歴史を証言する資料を通して、戦争（イクサ）へと巻き込まれていった人びとの実像に迫り、平和について考える趣旨で開かれたものです。

Tel&Fax:098-965-3866

<http://www.city.uruma.lg.jp/1/201.html>

### 久米島博物館：沖縄

「平和展」が 2013 年 6 月 8 日～23 日の会期で開催されました。博物館が所蔵する資料のほか、久米島高校の生徒が平和への思いを込めて作成した資料や平和メッセージを展示していました。関連して、6 月 23 日の慰霊の日には平和学習会を開催し、戦争と平和、久米島での戦争について学びました。

Tel:098-896-7181 Fax:098-896-7182

<http://sizenbunka.ti-da.net/>



### 宜野湾市立博物館：沖縄

慰霊の日・写真パネル展「イクサユヌ じのーん（戦世の宜野湾）」が2013年6月19日～30日の会期で開催されました。沖縄戦について、宜野湾を中心に写真パネルを展示して、戦争と平和について考えるものでした。

Tel:098-870-9317 Fax:098-870-9316

<http://www.city.ginowan.okinawa.jp/organization/shiritsu-hakubutsukan/1419.html>

### 名護博物館：沖縄

名護博物館開館30周年記念企画展「名護・やんばるの戦争展－収容所から」が2013年6月14日～30日の会期で開催されました。アメリカ軍上陸によって甚大な被害が出た沖縄戦。本島北部の名護市では、田井等、瀬嵩、大浦崎、久志などに収容所がありました。特に久志地区のほとんどの集落が収容所となり、アメリカ軍は投降してきた人やとらえた人を収容所に送りました。今回の企画展では、収容所の位置、様子などが地図・写真などを使って紹介され、収容所からの戦後復興を考える展示となっていました。

Tel:0980-53-1342 Fax:0980-53-1362

<http://www.city.nago.okinawa.jp/4/3282.html>

### 宮古島市総合博物館：沖縄

慰霊の日関連特別展示「戦争と子どもたち」が2013年6月19日～30日の会期で開催されました。アメリカ軍の爆撃で崩壊した那覇市街や艦砲射撃を浴びせるアメリカの軍艦、白旗を持ってアメリカ軍の前線に近づく少女、捕虜となった日本兵などの県平和祈念資料館から借用した写真、満州事

変から太平洋戦争終結までの15年戦争の流れ、戦前・戦時中の学校教育や疎開、強制動員などのパネル、軍服一式、千人針、陸軍飯ごう、徴用令状、軍票、疎開時の転出証明書、死亡告知書、1940年代のアメリカ軍発行の宮古諸島地図などの資料、合計95点の展示により、戦時下の子どもが置かれた環境を紹介し、戦争のむごさと命の大切さを伝え、未来の平和について考えるものでした。

Tel:0980-73-0567

<http://www.city.miyakojima.lg.jp/soshiki/kyouiku/syougai-gakusyu/hakubutsukan/index.html>

### 宮古島市平良図書館北分館：沖縄

「平和資料展」が2013年6月16～29日の会期で開催されました。先の大戦で亡くなった多くの御霊の鎮魂と恒久平和への誓いを願って、沖縄戦の写真集や書物、パネルなどが展示され、ビデオも上映されました。

Tel:0980-72-2235 Fax:0980-3-1136

<http://www.city.miyakojima.lg.jp/soshiki/kyouiku/syougai-gakusyu/tosyokan/index.html>

### 海外のニュース



英国ブラッドフォード ピースミュージアム  
(2013年秋冬 ニュースレターより)

### 新しい展示

ピースミュージアムは常に、平和について多様な観点を引き出し、新しい展示を試みています。現在は、名を知られている方もそうでない方も含めて、ノーベル平和賞受賞者についての展示を行っています。来場者は熱心で、特に3Dの展示物を楽しんでおられます。期間限定展示なので、早めに観にきてください！

## 今後の企画予定

予定に入れておいてくださいね。

### 「ピース ワンデイ (平和の一日)」2013 年 9 月 21 日

この土曜日は世界平和の日「ピース ワンデイ」です。このイベントのために、ミュージアムは午前 10 時から午後 2 時まで開けています。平和史跡の道の地図を取って、ブラッドフォード近辺を散策してください。

その他の情報は <http://peaceoneday.org/> をご覧ください。

### ポジティブ ブラッドフォード

私たちはブラッドフォードの、地域のつながりや調和、平和への前向きな姿勢が好きです。2013 年 9 月 28 日に、センテナリー スクエアで「ポジティブ ブラッドフォード デイ」を祝います。ぜひ参加して、私たちのブースを探してください。

### ブラックヒストリー月間

「ブラックヒストリー月間」を讃えて展示を行なうことになりました。「ブラックヒストリーへの道」というタイトルで催します。

展示の中には、サリア・キャンプベルさんのご好意でミュージアムに貸していただいているネルソン・マンデラ氏のバナーがあります。(写真をご覧ください)

### チョイス 過去と現在



私たちは第一次世界大戦を新たに見直す教育プロジェクトを展開しています。BMDC (内務省基金) の学校教育の一環として行ないます。ブラッドフォード大学の教師や学生と協働し、過去と現在の

選択肢を考えます。若い人たちが過去の出来事や現在起こっていることを考え、それにいかに対応し行動するかで、いかに未来につながるかを探究するのです。2013 年 11 月から、教育実習生や現職教員のための教材は、ピースミュージアムから利用可能です。2015, 2016 年に、このプロジェクトを補完する広く多様なメディアの展示が成されることを期待します。(開催地も決まる予定)。企画は進行中で、基金を積極的に求めています。いろんな提案や資金援助をぜひお願いします。

### Timothy Gachanga からの便り

#### INMP の方々へ

平安にお過ごしのことと存じます。ケニアのノース・リフトにあるサンプルという所で、最近私たちが行なった移動展示の写真をご覧ください。(写真は省略します) カラモジャ族として知られているノース・リフト地域は、牧草地をめぐる牧畜民の民族間紛争で知られています。

カラモジャ族の人々の生活様式は、野蛮で持続不可能で非生産的だとみなされています。彼らを保護すべき政府が、彼らの文化やアイデンティティを根絶しようとしたこともありました。例えばモイ(Moi)は大統領になるとすぐに、牧畜民の文化的表現を抑圧しました。始まりは 1979 年で、リフトバレー地方の北部を旅行した時のことです。家畜が盗まれる事件が民族紛争につながり、警察まで巻き込む騒動になっていました。政府はこの状況を、人々が未開で教育が不足している結果だと考えました。文化こそが問題で、是正すべきだと考えたのです。ナクルの北側にあるカペドの集会では、牧畜民の伝統的な服装を西欧の服に変えることで、近代化すべきだと人々に促しました。演台の上に二人の少女を、右と左に立たせました。一人は伝統的衣装、もう一人は西欧の服を着ていましたが、前者を後進的、後者を進歩的だと指摘

したのです。ウガンダ前大統領のアミン・ダダも同様の方法を取ったということです。つまりカラモジョン族に、家畜の皮から作った伝統的な衣服ではなく、西洋の洋服を着るように強いたのです。

移動展示することで、私たちは三つの共同体で展示することができました。すなわちサンプル、ドロボ、そしてポコトです。サンプルとポコトは常に紛争状態にあり、ドロボは常に二つの共同体の間に挟まっています。警察が呼びかけた会合では、サンプルは遠くて会合に参加できませんでしたが、ドロボとポコトは、いかに紛争を終結させることができるかを話し合いました。長老たちは私たちに、彼らが和解できるよう手助けしてほしいと頼んできました。以前は在ったが、2003年に政治介入のために壊された誓約を思い出し、また新しく誓約をつくれれば、きっと紛争を終結させることができると考えているのです。

ここには兵士も参加しています。彼らの仕事は、他の共同体からの侵入を護ることです。普通は銃を携帯していますが、この対話の間は、平和の象徴として杖を持っています。

平和の旅は続きます。なおこの活動は、CPMHFとスウェーデンの「国境なき文化遺産」(Cultural Heritage without Borders)によって支えられています。



### 良心のサイトの国際連合

#### International Coalition of Sites of Conscience

8月24日の朝、ペルーのリマにある記念碑"El Ojo que Lloro"「涙の瞳」の場に、100人の犠牲者が輪になって立ちました。ペルー各地から多くの市民も集まり、一人ひとりの犠牲者の前に立って、それぞれの人の話に耳を傾けました。話を聞くう

ちに互いに寄り添い、苦しみを共感し始めたのです。

さらに高僧や役人も加わり、1980年から2000年の間に69000もの人が亡くなった悲劇を、二度と繰り返さないようにと誓いました。犠牲者の家族の一人は「ここは本当に記憶の場だ」と述べました。

これこそが記憶の力です。良心のサイトが力を尽していることです。人々が共に記憶するだけでなく、その記憶が今後、人権の尊重と社会正義の約束につながるように、と。

記憶が未来をつくる力になることはご存知でしょう。この機会に、良心のサイトの国際連合を支援していただくことをお願いします。54の国々の都市や地方に、180を超える大小様々なサイトがありますが、語ることで内外の社会に、人権と民主主義の力強い文化を築こうとしています。常に世界の7つの地域で、重要な歴史や今につながることで、拷問、監禁、殺戮、移民、奴隷制、原住民の排斥などの問題に取り組んでいます。この仕事を成すには、技術的、財政的資源、知識の共有や教育がどうしても必要です。

良心のサイトの国際連合は、受身の学びの場から、市民自らが関わる新たな場へと、それぞれが発展できるように支援している唯一の機関です。皆さんの応援によって、私たちのユニークで効果的なプログラムが可能になるのです。

語られることで真実が広く伝わり、未来が正義と責務に基づいて築かれるよう、ご参加ください。

事務局長 エリザベス・シルクス



## エンビジョンピースミュージアム ニュースレター2013

エンビジョンピースミュージアムは新しい事務局メンバーを迎え、フィラデルフィアなどの都市での銃犯罪問題を解決するため、専門家を招いて効果的な非暴力教育の移動展覧会を企画しています。手狭になったためにもっと活動しやすい場所への移転も計画中です。よい情報のある方はお知らせください。



### 最新情報

このたびフィラデルフィアの著名な詩人で作家の元テンプル大学教授・ソニア・サンチェス教授をエンビジョンピースミュージアムの顧問としてお迎えすることになりました。先ごろ彼女は、ライフワークである俳句をもちいて若者への創作指導、壁画制作などのプロジェクト「平和は俳句だー壁画創造とともに」を完成させました。エンビジョンミュージアムでは彼女のインタビューを撮影しアップしています。

<http://www.envisionpeacemuseum.org/2013/04/the-possibility-of-peace-in-the-midst-of-the-uproar-an-interview-with-sonia-sanchez/>

エンビジョンピースミュージアムの基本的な目的は日常の中で平和を実践する人を増やすことです。対立的な場面に直面したとき、非暴力的に対処するための方法の一つは「ノンバイオレント・アクション NVA : 非暴力行為」です。エンビジョンピースミュージアムでは初めてのオンライン展示「NVA101」を2013年8月に開設、Swarthmore スワースモアカレッジの国際非暴力行動データベース (Swarthmore College's Global Nonviolent Action Database /GNAD) のサポートを得て、非常に貴重な世界中のまた歴史的な非暴力的行動を集め展示しています。

この双方向的なオンライン展示では閲覧者が自分の関心のある問題を選び、考察しその問題がない

と仮定した世界を想定、どうしたらなくすことができるのかを実際の市民の活動実践や様々なデータにアクセスして、解決法を追っていきます。エンビジョンピースミュージアムにも多大な影響を与えた非暴力革命家のジーン・シャープのセミナーもあります。

オンライン展覧会「NVA101」は9月21日のピースデーまでには開設して、他の平和団体とともにフレンドセンターのホールで、実践活動の発表、活動立ち上げノウハウから軍事費に対するキャンペーンまで、さまざまな平和教育にかかわるワークショップを行います。

「暴力をなくしていくには、非暴力的な行為にもっともっと注目を向けなければいけない」

パレスチナの町で起こった対立、立場を超えた人々の連帯による非暴力平和行動を映画化したBurdusの監督・ジュリア・バーチャの言葉です。エンビジョンピースミュージアムは同様な目的を持つ活動団体と連携しながら、身近な非暴力平和行動に光を当て、広げ、増やしていくことを目指しています。

「プロジェクト・ホーム」

フィラデルフィアには貧困、ホームレスの問題があり、その解決に取り組むために1988年に「プロジェクト・ホーム」が立ち上げられました。創設者のシスター・メアリー・スカリオンは「だれもが帰宅できないうちは誰も帰宅できない」とのメッセージ、フィラデルフィア市民の行動を撮影したビデオを発表しました。

<http://www.envisionpeacemuseum.org/2013/08/none-are-home-until-all-are-home/>

クンダ・ディクシット、「戦争のフレーム」展とともに平和博物館を開館

- Susal Stebbins Collins

スーザル・ステビンス・コリンズ

ネパールの著名な出版者クンダ・ディクシットが、持続可能な平和の考えをネパールの公共意識の最前線へと投げかけている。彼の直近の功績は平和博物館で、その設立にあたり革新的な写真展「戦争のフレーム」を開催した。この最初のプロジェクトのため、ディクシットは、「人民戦争」とその後を描いた彼の三部作から一連の力強い写真、そしてスリランカの老練フォトジャーナリスト、ゲムヌ・アマラシングの作品を一堂に集めた。展示は1月11日までパタン・ドーカのマダン・プラスカール・プスタカラヤで行われた。

「戦争のフレーム」展は、将来の平和博物館「シャンティ・サングラヤ」の簡素で開けた部屋で行われた。作品は、類似のテーマにおける同様の展示であるとすぐさま理解できる様相でありながらもはっきりとした対照を成している。

1996-2006年のネパール「人民戦争」とその後の写真は壁面の白い背景の上に展示される一方で、アマラシングのスリランカ25年に渡る武装闘争の作品は、天井から吊るされ黒い背景の上に展示されている。この配置は紛争そのものを象徴している。同じ時代に同じ南アジアに存在した別の紛争だ。そのイメージは時に類似しているが、その状況は対照的である。ネパールでは、戦争の武力衝突は（多党の和平合意によって）先送りされているが、スリランカでは、（政府がタミルの虎に「勝利した」ことで）人為的に中断された。

両展示とも「紛争後の回顧」であるが、忘れてはならない最近の記憶や現在の状況を表している。作品は、戦争の苦しみとむしろ従来の「戦争報道」に対する癒しの必要性に焦点をあてている。ゲムヌはこう説明する、「私達は大抵、勝利者から話を聞くものだが、これらの写真は残された犠牲者達の物語を語っている」

その語られる物語は、深い痛みを伴った個人的なものだ。ネパールでは、36人の警官が殺害された戦闘の直後、夫の亡骸に自らを投げかける女性がいる。別の女性は、同じ週に別の事件で殺害され

た毛沢東主義の娘と警官の夫を哀悼している。スリランカでは、迷彩軍服の年若い少年が父親の墓前で泣いている。そしてタミルの児童らが、自爆者の棺に厳粛な敬意を表している。

作品は、血まみれでばらばらの遺体で時折生々しくはあるが、嘆き悲しむ家族や罪のない目撃者ら生存者の存在によってバランスが保たれている。この並列は、戦闘によって永久に人生が変わってしまった何千人もの人々への共感を呼び起こし、暴力からの圧倒や暴力への麻痺を防いでいるようである。また暴力への心理的影響は、壁面の爆風でできたであろうギザギザの穴に囲まれた途方に暮れている二人の少年の象徴的な画像を通して表現されている。この画像は、展示会のポスターになっている。

ネパールセクションの重要な特徴は、最初の作品における物語を継続させる個人への回帰である。つまり、サリーを巻いた顔の側でライフルを抱えている険しい表情をした若い女性が毛沢東主義者であると気付いた後、写真の下の数年後の彼女を再び見て、現在はネパール王立軍の兵士であった兄弟と再会し幸せそうに顔を輝かせているのを私達は知る（クンダは、ネパールの戦争は市民戦争であっただけなく「兄弟戦争」でもあったと指摘する）。またブロックを振りかざして怒った群集から警官を守ろうとする勇敢な若い民間人を見た後、彼がその場を切り抜け、彼の行動が「それが誰であっても同じことをしただろう」と至極当たり前であったとみなされたことを下にかかれた文によって知るのだ。クンダが気付いているように、物語のひとつひとつが長編映画に成り得るほど人の心を掴んで離さない。

展覧会のネパールセクション「戦後の人々」は、かなり大きな衝撃を与えてきており、ネパール国内31箇所で開催され35万人の見学者が訪れている。カタルシスと癒しの力強い体験を提供している。多くの好意的反響にクンダは思いを馳せた。「ある学生がこう言った。『前は父さんを殺した奴

らに復讐したいと思っていた。でもこの写真を見て彼らもまた僕と同じく親を失くしたと気付いたんだ。復讐心は消えたよ』

この二つの内戦の違いは作品に表れている。スリランカの写真は比喩的にそして文字通り暗く、さらなる暴力とさらなる民族的憎悪を描き、和解は一切示されない。クンダの説明どおり「民族紛争は（ネパールにおける階級闘争よりも）もっと残忍なものだ。報復戦で全ての村々が一掃された。爆弾を搭載したトラックは一度に 100 人を殺害してしまう。民間人の犠牲者の数はもっと酷かった。結果として、スリランカの立ち直りはさらに長期間を要した」

クンダとゲムヌは、彼らの平和ジャーナリズムに対する姿勢が共通しスリランカとネパールが互いに多くを学びあえると認識し、このプロジェクトを共同で行ってきた。実際、二人はお互いの相手国で仕事をしてきている。クンダは 1987-88 年スリランカでレポーターとして働き、ゲムヌは 2009 年 4 月から幾度となくネパールの AP 通信社のフォトジャーナリストとして働いてきた。どちらも南アジアやその他の多くの紛争における熟練レポーターである。共同写真展の存在理由を定義するにあたり、クンダはこう言う。「政府や軍は、ベトナム戦争からイメージコントロールが必要だと学んだ。戦争とはプロパガンダのレベルで戦われるものだ。独立したフォトジャーナリストはこれに挑戦する。我々は戦争の人的損失を表現するんだ」ゲムヌはこう付け加える。「この交流は模範となりうる。我々は平和を望み、民主主義と市民社会を望む写真家なんだ」二人とも、彼ら自身の国が再び戦争に戻るのを防ぐ一端となることに意欲的である。「戦争は終わっていないととらえなくてはならない。肉親を失くした家族のもとに行ったり、復興で何が起きているのかを知るためには。忘れてはならない。人々は友人や家族を失くしたことを今も覚えているし、戦争などいらない

と彼らは理解している」とクンダは言う。「一方がもう一方に勝ったとしても、戦争の遺産はなお暴力だということを人々は理解しなければならない」とゲムヌは言い足す。

クンダはまた、スリランカをネパールにとっての訓話だと見ている。「スリランカの民族グループはたった二つだが、我々には 103 もある。もし我々が民族紛争になったら、単なる山間部と平野部間ではなく平野同士の他民族が関係するものとなる。スリランカとネパールの写真を同じ部屋に置いてみて、ありうる将来を予想することができる。そして違う選択をすることができるんだ」

クンダ・ディクシットにとって「戦争のフレーム」展は、「社会が戦争で経験する多大な苦痛は無意味である」ことを全ての人々が理解するために展開する平和博物館の核である。当博物館は、戦争の重要な歴史的見解（次回の写真展はインドにおける毛沢東主義者の闘争の予定）だけでなく、ガンジーのインド独立運動や南アフリカの反アパルトヘイト運動、アン・サン・スーチーのビルマ・ミャンマー民主運動など、社会改革のための偉大な非暴力の闘いを扱っていく予定だ。この革新的な博物館の 4 月の開館を心待ちにしようではないか。そして皆に平和のあらんことを！

[http://fridayweekly.com.np/issue\\_that\\_matters.php?id=116](http://fridayweekly.com.np/issue_that_matters.php?id=116)

## 第 11 回平和のための芸術国際交流会

キャサリン・ジョステン Katherine Josten

平和のための芸術国際交流には、大人、子ども、個人、グループなど、どなたでも参加できます。グローバルアートプロジェクトの目的は、芸術を通して楽しく平和の文化を創造することです。詳細は、次のウェブサイトで知ることができます。

（英文です）

[www.globalartproject.org](http://www.globalartproject.org)

email : [peace@globalartproject.org](mailto:peace@globalartproject.org).







### 中国における忘れられた強制収容所

上海高校の建物は、第二次世界大戦中日本軍によって監獄として使用されました。それは「太陽の帝国」("Empire of the Sun" by JG Ballard) という小説によって良く知られるようになりました。そこには 1800 人以上の外国人が入れられていました。イギリスの小説家 J・G・バラードの体験をつづった半自伝的な長編小説ですが、スティーヴン・スピルバーグによって映画化され、1987 年に公開されました。日中戦争時の中華民国上海で生活していたイギリス人少年の成長を描いています。詳細は次のウェブサイトにあります。(英文です)

[http://artdaily.com/index.asp?int\\_sec=11&int\\_new=67986#.UwFYb\\_1\\_v\\_G\[/url\]](http://artdaily.com/index.asp?int_sec=11&int_new=67986#.UwFYb_1_v_G[/url])



### 平和の博愛主義を祝して

オランダのハーグで、8月から9月に平和宮百周年記念祝賀会が開催されました。その際 INMP や平和のための博物館の活動が多くの人々に知られるいくつかの機会がありました。特に国際都市であるハーグ市と多様な人々の間に紹介されました。9月2-3日に平和宮で「平和の博愛主義を祝し平和教育を推進する—アンドリュー・カーネギーに続いて」と題するシンポジウムが開催され、数

名の主な篤志家や主要な財団の代表者が招待され、演説を行いました。彼らは、過去そして今日において平和の文化の構築をするために寄付をすることの重要性について語りました。平和教育が極めて重要であること、そしてその財源の必要性について、その分野で著名な人物が強調しました。シンポジウムでは、国連事務総長の潘基文氏の言葉である「世界は過剰に武装されているが、平和の基金は不足している」が紹介されました。彼は平和宮百年祭の開催された8月23日の2-3日前に、平和宮で演説を行いました。

9月2日の夕方平和宮百年記念祭の主な行事として、歴史的な建物である騎士の間で晚餐会が開かれました。ハーグにおける有名な会社 (Marketing & Public Relations company) のウィンケルマン&ヴァン・ヘッセン氏は平和宮と協力して、このような記念祭を組織しました。このような機会に、INMP は篤志家についてシンポジウムを開催して人々に感動を与えました。晚餐会はオランダ安全保障・司法省によって主催され、シンポジウムでのメッセージが数百人のビジネスリーダーの前で紹介されました。

シンポジウムの基調演説者のギリアン・ソレンセン氏 (国連基金諮問委員)、ウィリアム・トムソン氏 (アンドリュー・カーネギーの曾孫)、コーラ・ヴァイス氏 (ハーグ平和アピール代表) が演説を行い、カーネギーに続くような篤志家のいる聴衆に感動を与えました。

夕方の晚餐会では、二つの慈善団体の「戦争下の子ども」と「戦争・平和報道研究所」のために競売があり、3万ユーロの資金が集まりました。INMP の参加者もかなりいました。小松昭夫氏 (彼の寛大な寄付のおかげでシンポジウムが可能になりました) と彼の会社の社員数名も晚餐会に参加することができました。

平和の博愛主義のメッセージを広め、同時に INMP についてもっと知らせる3回目の機会が翌日の夕方ありました。INMP が制作した「平和の

博愛主義一当時と今日」という展示が、ハーグ市役所にある大きな中庭で他の平和に関する展示と共に行われました。

ハーグ市長のジョジアス・ヴァン・アアルツエンの参加の下で、約 400 名の人々が参加しました。イラストと説明文のある 26 枚のパネルからなるこのユニークでカラー刷りの展示物は 5 週間展示され、現在移動展示物として使うことができます。その展示物が、多くの平和博物館やその他の展示センターに受け入れられることを願っています。詳細は、INMP のホームページをご覧ください。

上記のプロジェクトの準備のために、INMP 事務局では過去約 18 か月間大変忙しくしていました。その結果たくさん新たな知り合いができ（また数名の方がメンバーになり）、このことは INMP の良い未来の前兆を示しているようです。

### イラクのハラブジャ記念館とイランのテヘラン平和博物館

6 月 10 日イラクのハラブジャ記念館とイランのテヘラン平和博物館は INMP の会員同士の関係強化のため、姉妹提携の調印をしました。合意書には、化学兵器とその犠牲者に関連したことが含まれています。詳細はオンラインで知ることができます。

INMP 統括者であるピーター・ヴァン・デン・デュンゲン博士は、テヘランのオランダ大使へ、テヘラン平和博物館を訪問するように勧めた手紙を出しましたが、その努力が報われました。6 月 19 日にオランダ大使と一等書記官がテヘラン平和博物館を訪問したことは、名誉なことでした。平和博物館館長のシャハリア・カテリ氏は二人の外交官を歓迎し、博物館の仕事や、ビザの問題について話し合いました。と言うのは、博物館の関係者が今年ノーベル平和賞を受賞した化学兵器禁止機関関係の会議に参加するためにハーグへ行こうとビザを入手しようとした際、比較的困難であったからです。

9 月 29－30 日にテヘラン平和博物館では、国連広報局と提携して、特別な儀式が行われました。戦争を予防し平和を維持するための非軍事的行動に関する報告が、次の人々によってなされました。国連在住コーディネーターのギャリー・ルイス氏、ユネスコ国家委員会会長のモハマド・サイード・アバディ博士、国際博物館委員会イラン代表のモハマド・ベヘンティ氏、テヘラン平和博物館代表のタキ・レザ・モガダム氏です。その行事の間に参加者は戦争犠牲者を追悼して、一分間の黙祷を捧げました。国連安保理会議のシミュレーションテヘラン大学で国際関係、国際法、政治学を学んでいる 34 人の学部生、修士課程と博士課程の大学院生が、テヘラン平和博物館で開催されたシミュレーションプログラムに参加しました。国際研究学部では国連広報局と提携して、9 月 28 日に国連安保理会議の模擬会議を開催しました。この会議においては、ニューヨークの第 68 回国連総会において決議されたように、シリアに化学兵器を放棄することを求める決議が採択されました。

### インド：ヒロシマ・ナガサキの追悼行事

8 月 19 日ノーモアヒロシマ・ナガサキ平和博物館では、原爆に関するポスター展示と、インドのナーグプルにある芸術・商業女子大学院生のために講演会を行いました。

館長のバルクリシュナ・クルヴェイ博士は INMP 理事でもあります。1945 年 8 月 6 日の広島への原爆投下と 8 月 9 日の長崎への原爆投下について講演をしました。彼は原爆投下の原因、そして原爆直後とその後長期にわたる大惨事の影響について話しました。

インドとパキстанは、両国が核兵器を所有しているので、核戦争を恐れています。核兵器の犠牲者には医学的治療はできず、核戦争の予防こそが唯一の救済法です。ノーベル平和賞を受賞した核戦争防止国際医師会議は、『ボンベイの爆撃』という冊子を出版しましたが、それはこの行事に積極

的に参加した学生に紹介されました。



### 女性の平和運動の映像が発見される

平和運動の指導者であるジェーン・アダムズとアレックサ・ジェーコブズの最初の動画が、INMPのフリーランサーの理事であるマーティン・ヴァン・ハルテン氏によって発見されました。それは11月にオランダのテレビとラジオのゴールデンアワーのニュースとなりました。第一次世界大戦の映像は歴史的遺産であり、今後修復の必要があります。

マーティンさんは、1915年の女性平和会議について「ハーグの平和の足跡」というプロジェクトの研究をしていた際、デジタルアーカイヴでその映像を見つけました。その中に婦人国際平和自由連盟(WILPF)の共同創設者のアレックサ・ジェーコブズ(オランダ)、ジェーン・アダムズ(アメリカ)、アリス・ハミルトン(アメリカ)の映像があります。それは1915年5月21日ベルリンのブランデンブルグ門の前で撮られたもので戦争の仲介の提案をし、女性の政治的権利について話すためにドイツ外務省へ行き、また首相に会いに行く途中でした。「ハーグの平和の足跡」はヨーロッパのプロジェクトの一部で、INMPは現在それに関わっています。

その映像の一部は、W.H. Durboroughの「ドイツ攻撃最前線」(1915)というパイオニア的戦争記録映画の中にあり、その映画は映像歴史家のクーパー・グラハムによって発見され修復されました。

(彼の記事は「映像の歴史」においてオンラインで読むことができます) その映画はアメリカの至る所で上映され、特に平和主義者の意見が影響力を持っていた中

西部で、1917年アメリカの参戦まで上映されました。アメリカ議会図書館に保存されている本物のナイトレートフィルムは、緊急に修復する必要があります。まだ隠されている他の宝のような映像

を発掘し保存する一方で、2015年の来たるべきWILPF百周年記念では、この映画を上映するのに映像博物館との協力をする機会が出てくることでしょう。

### 平和・非暴力のための博物館、抵抗博物館に加わる

2013年7月4日平和・非暴力のためのオランダ博物館は、ハウダにある抵抗博物館の存続を祝いました。その抵抗博物館は、南オランダ州の毎年の財政的援助がなくなり、2014年にはその存続が危ぶまれていました。この問題を解決するために、その博物館ではいくつかの組織と新たな提携を始めました。その中のひとつが、INMP会員の平和・非暴力の博物館でした。このオンライン博物館には移動展示物があり、現在抵抗博物館内の常設展示室を借りています。「許しと和解」という最初の展示は、7月に行われました。それは人々が被害者と加害者の出会いについて関心を抱くような印象を与えています。そこでの物語は、多くの異なった国において暴力を体験して生き残った人々に関するものです。多くの人々はお互いに許し合い、和解する必要性を感じていました。その展示は2013年12月28日まで行われる予定です。

### ハワイ公共ラジオ出演のカワムラ氏

INMP会員のベツイ・カワムラ氏は、8月にハワイの公共ラジオのコズロヴィックにより、北朝鮮難民に関する活動について取材を受けました。彼女は「非暴力のための女性たち」というNGOの創設者で代表です。彼女は2つの理由でその活動を始めました。

それはベトナム戦争末期における沖縄での個人的体験と、真珠湾攻撃後祖父が敵のスパイとして尋問されたことです。彼女は「このようなことが戦争になると少数派の人々におこりうることを、私たちは胸に刻んでおかなければなりません。」と述べました。このような理由で、彼女は現在北朝鮮

の難民に焦点を当てて活動をしています。取材の時カワムラ氏はハワイ大学ウエストオアフキャンパスで、北朝鮮難民問題について講義をするためにホノルルにいました。ポドキャストで講演を聞くことができます。

INMP 通信で次のように紹介されました。

#### 安齋教授平和賞受賞

11月9日東京にある明治学院大学で開催された日本平和学会秋季大会で、安齋育郎教授は平和賞を受賞されました。授賞は2年ごとですが、この度は安齋教授が何年にもわたって国内外の平和のための博物館のネットワーク構築に先駆的な貢献されてきたこと、そして核兵器と原発の危険性について一般の人々に知らせて教育に尽力されたことに対するものです。

日本平和学会は1973年に創設され、約900人の会員がいて、世界における国レベルの平和研究組織としては、大変大規模なものです。平和賞は2005年に、日本を拠点に平和研究、平和運動に大きな貢献をした人や組織に授けるために創設されました。安齋教授の学者、研究者、教授、講演家、著者、コンサルタント、組織者としての様々な活動を見れば、誰が見ても明らかに平和賞受賞者として選出されました。

安齋教授を平和賞受賞候補者とする提案は、2013年6月15日に大阪大学で開催された日本平和学会の総会において全員一致で承認されました。INMPは受賞に十分値する平和賞受賞の荣誉に輝く安齋教授に対して、心よりお祝い申し上げます。また日本平和学会理事及びINMPの理事である山根和代さんが推薦したことに感謝の意を表します。同時にこの平和賞はまた東京にある「女たちの戦争と平和博物館(WAM)」にも授けられました。世界における主要な平和研究学会によって平和博物館の活動が認められたのは、大変喜ばしいことで

す。



#### 新刊書 (英文)

『記念碑の美：世界の平和記念碑と平和博物館』

エドワード・W・ロイス著

出版社: Peace Partners

International & Bookstand

Publishing (2013)

72 ページ

ISBN 978-1618635426

この本は、INMP 会員のエドワード (テッド) ・ロイス氏の最新刊本です。ハーグの平和宮百周年、また INMP が 9 月 2-3 日に平和宮で組織したシンポジウムを記念して出版されました。著者は平和記念碑に関する世界の第一人者で、シンポジウムに招待された演説者の一人です。カラ・刷りで人を鼓舞するような著書は、ゾニア・バーベルが 40 の平和のシンボルについて書いた本 (1948 年婦人国際平和自由連盟によって出版) 以来初めてのものです。ロイス氏の本には、古代から現在にかけて世界にある 416 の記念碑と博物館が載せられています。画像が年代順に 12 章にわたって分類されています。テーマ別の各章には、主な政治的社会的発展の背景の下で、その時代に創られた記念碑や博物館の簡潔な概要が書かれています。各映像の説明文には、記念碑の名前、その作者、場所、設置日の重要な情報が書かれています。その本には大変役に立つインデックスが 2 つあります。一つは都市と場所名、そしてもうひとつは人名と組織名です。

著者は世界の平和記念碑に関する最大のオンラインのデータベース (数千個もの) を、管理しています。また平和の文化、教育、歴史、研究に関心のある人ならだれでもわくわくして活用できるウェブページもあります。それらのウェブページや

本は、ロイス氏の愛情のこもった活動の賜物であり、それらは私たちに教えや、喜び、希望、感動を与えてくれます。ですからレッド・ロイス氏は、私たちの感謝と祝福の言葉を受けるに値するのです。

### 『人道主義の冒険』

ロジェ・マヨウ(編集)

出版社: IRCRCM & In-Folio, Golion

(2013)180 ページ

ISBN 978-2884742832

この新しい常設展示の美しく重要なカラー刷りのカタログは、リニューアルした国際赤十字・赤新月博物館のある種のバーチャルな訪問を可能にします。カタログには、博物館で展示されているたくさんの画像、工芸品、文章が再現されています。展示は「人間の尊厳を守る」「家族の絆の修復」「自然の危険を減らす」という3つの部分から成り、その本で紹介されています。各セクションには読者のために、訪問者が見る物が提供されています。勿論博物館での様々な体験は、紙上で再現することはできません。例えば、訪問者が適切な指示をすれば上映される12人の証人(3つのセクションに4人いる)の感動的な物語は紙上で聞くことはできません。しかし写真や物語は、その本で再現されています。博物館

で展示されていて胸に響くのは、1996年スレブレニカの母親たちによって作られた大きな横断幕です。そこでは母親たちが、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ戦争の間姿を消した父親や息子たちを探すのを助けてほしいと全世界にアピールしています。国際戦争捕虜局アーカイヴ(1914-1923)には、600万人ものインデックスカードがあり、それらも「家族の絆の修復」のセクションにある印象的な(そして大量にある)展示物です。

まとめのセクションでは、博物館の歴史が書かれています。1988年に開館し、2011年に改装するまでに180万人の訪問者を歓迎しました。その間

博物館では47の企画展示、100以上の会議、1000回以上の夏季コンサートを行いました。展示を新たにした博物館が、今後これまでと同様に成功することを願っています。

### 『忘れることができなかった女性』

著者: Ying-Ying Chang

出版社: Pegasus Books

(2012) 456 ページ

ISBN 978-1605983578

INMP 会員の Shanyou Yang

教授(南京大学)の書評

中国系アメリカ人のアイリス・チャンは、1995年中国への旅で南京大虐殺(1937)の生存者に会いました。「私が出会ったどの生存者も、自分の体験をどうしても伝えたいと考えていました」と彼女は後に語っています。「私は各生存者と数時間費やして、ビデオを使い彼らの体験の詳細を知りました…この長く困難な活動の中で私を強く支えたのは、多くの著名な日本人の政治家、学者、産業界のリーダーたちが、南京大虐殺が起こったという証拠がたくさんあるにもかかわらず、それを頑なに否定したことです…この本を書く必要性を強く感じるようになったのは、この特定の日本人が故意に歴史を改ざんしようとしたからです。」

1996年アイリス・チャンが南京大虐殺の調査をしていた時、彼女はジョン・ラーベの名前と彼が大虐殺の間書いていた何千ページもの日記をついに発見しました。ハーバード大学の William C. Kirby 教授は、次のように述べたと引用されています。「チャンさんが発見した情報源は、南京の人々を匿うために国際的な努力を行ったドイツのビジネスマンであるジョン・ラーベの日記—実際には小さなアーカイヴであった。ラーベの目を通して、私たちは南京の人々が無防備な状態で日本軍の猛攻撃に直面した時の恐怖感と勇気を理解

するのです。チャンさんの説明を通して、南京市が焼かれ、その住民が襲撃され、病院は閉鎖され、死体保管所が満杯状態で混沌とした状態の中で、何とかしようとしたラーベやその他の人々の勇気を高く評価するのです。私たちはまた起こっていることを理解し恥を感じている日本人についても読むことができます。」2004年11月9日アイリス・チャンは自ら命を絶ちました。彼女は、勇気と信念に満ちた人生を送り、人々を啓発し励ますようなライフワークを私たちに遺して逝きました。2012年5月アイリス・チャンの両親が、南京大学のジョン・ラーベ記念ホールで開催された娘に関する展示会の開会式に出席するために招待されました。アイリス・チャンの母親であるYing-Ying Changさんが娘の思い出を完成させるのに、5年かかりました。その本の中で次のように述べています。「彼女は36年という短い生涯でしたが、歴史的真相の保存をし、声なき被害者の正義を追求するための情熱、献身、誠実さという高潔な精神、そして彼女の決意を通して、世界中の非常に多くの人々に感動を与えました。アイリスは、苦しむ人々に深く共感できる女性でした。彼女は忘れることが出来ない女性でした。」

### 『草の根の平和教育』

イアン・M・ハリス(編集)

出版社:University of Wisconsin, Milwaukee

(2013) 342 ページ

ISBN 978-1623963491

歴史家は、普通の人々が生活の向上のために日常的に努力していることをよく無視しがちです。彼らは著名な指導者の業績に焦点を当てる傾向があります。『草の根の平和教育』では、暴力の原因や平和実現の方法について教えることによって、多くの暴力に関心を持ちそれを阻止しようと努力している市民、教員、草の根の活動家についての物語を紹介しています。

この本に載せられている小論では、13か国（ベル

ギー、カナダ、エルサルバドル、ドイツ、インド、ジャマイカ、日本、メキシコ、フィリピン、韓国、スペイン、ウガンダ、アメリカ）の異なった国において、市民が草の根レベルで平和教育をどのようにして行っているのかを明らかにしています。14番目の論文では、国際赤十字社がバルカン、イラン、セネガル、アメリカにおいて、教員のための人権カリキュラムに基づいた努力をしています。平和教育に関するこの本の中には、INMP理事の山根和代の「ヌチドウタカラの家における平和教育」という論文も含まれています。

### 出版物（日本語）

#### 『平和を考えるための100冊』

出版社：法律文化社

編集：日本平和学会

(2014) 300 ページ

ISBN978-4-589-03566-0

平和について考えるために読むべき名著を解説した書評集。古典から新刊まで定番の書物を厳選し、要点を整理・概観。平和でない実態を知り、多面的な平和に出会うことができる。

対立模様の隣国との関係のもとで、政権党のイニシアティブで集団的自衛権や憲法「改正」の議論が展開されている現在、これまで積み上げられてきた経験を共有するための基礎を築こうとするブックガイド。2013年に創立40周年を迎えた日本平和学会が、いろいろな分野の85人の研究者の共同によって編集したもの。

カントやアーレント、ガルトゥングなど、平和を語るときに引用されることの多い外国の知識人だけでなく、大岡昇平、大江健三郎、小田実、坂本義和、鶴見良行らの作品を今の視点で読み直すなど、興味深い。

『ぼくは戦争は大きらい：やなせたかしの平和への思い』（小学館）

著者：やなせたかし

（2013）144 ページ

ISBN-13: 978-4778035082

2013 年 10 月 13 日に 94 歳で亡くなったマンガ家で、『アンパンマン』の作者として著名なやなせたかしが自らの戦争体験を綴った本。1915 年の春に召集を受けて中国戦線に派遣され、上海郊外で終戦を迎えた。戦争と軍隊を内部から風刺し、特攻に志願した弟との別れなど、辛く悲しい思い出も持ち前のユーモアを交えて語る笑いと涙の戦記。戦争体験、軍隊体験を語り継ぐことで、未来を生きる世代の記憶に少しでも残ればいい、と亡くなる直前まで語ったラストメッセージ。

『ビキニ水爆被災事件の真相―第五福竜丸ものがたり』

出版社：かもがわ出版

編著：ビキニ水爆被災事件静岡県調査研究会

監修：安斎育郎

（2014）80 ページ

ISBN：9784780306804

2014 年はビキニ被災事件から 60 年目に当たる。第 2 回焼津平和賞を受賞したビキニ水爆被災事件静岡県調査研究会が中心となって、中学校の副読本として使うことを念頭において編集したもの。事件の発端から、第五福竜丸無線長の久保山愛吉さんの死やマーシャル諸島の住民の被害および世界に広がった放射性降下物（「死の灰」）の状況を最新の資料にもとづいて紹介し、その燃え上がった原水爆禁止運動の世界的広がりが核兵器廃絶の国際世論を形成していった様子や、ビキニ事件の教訓から福島原爆事故について考察した終章に至るまで、分かりやすく書かれている。

『水爆と第五福竜丸―隠された事件の真相』

著者：枝村三郎（自費出版）

（以下は著書に紹介されている連絡先：

〒426-0006 静岡県藤枝市藤岡 3-12-5、電話＝054-638-2871）

（2014）204 ページ

長年にわたって高校の社会科教師として平和教育実践に関わり、静岡県歴史教育協議会事務局長、焼津市史編集委員、第五福竜丸平和協会の研究専門委員などを務めてきた著者が、ビキニ被災事件 60 年を機にまとめた著書で、史料を丁寧に紹介しつつ著者の核兵器廃絶に寄せる熱い思いを展開している。巻末には、「1954 年・焼津港の月別入港の放射能汚染漁獲物廃棄漁船」の一覧表もつ翳られている。

『魯迅の愛した内山書店―上海雁ヶ音茶館をめぐる国際連帯の物語』

出版社：かもがわ出版

著者：本庄豊

（2014 年）254 ページ

ISBN978-7803-0682-8

本書は、大正時代から昭和初期にかけて、中国・上海市の共同租界日本居留民区にあった内山書店を舞台とする、日本人と魯迅ら中国文化人の交友関係を克明に追ったノンフィクション歴史物語である。著者は、立命館宇治中学・高校の教員で、2008 年には「紫式部市民文化賞」を受賞している筆力の持ち主である。内山書店の経営者・内山美喜とその夫・完造に人間的なあたたかい目を向けながら、魯迅との信頼関係の深まりを、歴史家の確かな目で見据えた時代背景を炙り出しながら、随所に貴重な写真を配して魅力的に描出している。対立模様の日中関係を考える上でも、時宜を得た好著といえよう。

『軍医殿！腹をやられました』

出版社：かもがわ出版

著者：中野信夫

（2014）61 ページ

ISBN-13: 978-4780306736

立命館大学国際平和ミュージアムの創設に多大の貢献をされた中野信夫さんのご息女・中野圭子さんが、中野信夫さんが以前書かれた『靖国街道』を、『軍医殿！腹をやられましたーインパール作戦ビルマ敗走記録』として装い新たに出版されたもの。中野さんは、専門の眼科医療をベースに長年市民のための医療の発展に尽くし、全国保険医団体連合会の会長も歴任した。自らのビルマでの従軍体験もふまえて反戦・平和の市民活動の発展のためにも力を尽くし、1981年には「平和のための京都の戦争展」を呼びかけて、その後の平和運動の発展に大きく貢献した。国際平和ミュージアムの創設に際して5億円もの多額の財政支援を寄せ、2013年にハーグ（オランダ）の「平和宮」で開催された展示会“Peace Philanthropy – Then and Now”（平和への博愛精神—昔と今）でもパネルで紹介された。中野さんが綴るビルマ（現・ミャンマー）戦線の過酷な体験は、若い世代にも読みやすい形で戦争の悲惨さや非人道性を伝える力を秘めている。

-----

**【編集委員 山根・安斎からの呼びかけ】**  
**「平和のための博物館国際ネットワーク」**  
**（INMP）に参加しませんか？**

『ミューズ』編集委員の山根和代と安斎育郎は、それぞれ、「平和のための博物館国際ネットワーク」（International Network of Museums for Peace, INMP）の執行理事および諮問理事を務めています。INMPは2008年に日本で開催された第6回国際平和博物館会議のときの総会で「定款（規約）」を定め、オランダのハーグに事務所を置いて、世界の平和博物館の連携の発展のために、ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン統括コーディネーターのもとで努力を重ねています。私たちがINMPの会員となることは、世界の平和博物館の共同関係をさらに発展させるために貢献

します。相互に知恵や経験を共有しあうためにも、「平和のための博物館市民ネットワーク」の会員の皆さんにも、ぜひINMPの会員になって欲しいと常々感じています。ニューズレター（日本語版、年間2～4回）が送られるだけでなく、INMPの各種企画の情報が得られ、参加についての便宜も得られます。もちろん、会員の皆さんの平和博物館活動を世界に伝えることも可能です、年会費は2000円で、日本の登録会員の会費送付は山根・安斎がまとめて代行するサービスを行っています。ご関心の向きは下記あてにご一報下さい。安斎科学・平和事務所が直ちにオランダの事務局への登録手続きを代行いたします。

※安斎科学・平和事務所

〒600-8216 京都市下京区東塩小路町 547-4

ステーションコートヤード 802

TEL：075-741-7267（月・水・金 13:00-17:30）

FAX：075-741-7282 秘書：島野由利子

**編集後記**

今回も翻訳作業に竹田敦子さん、谷川佳子さん、寺沢京子さん（初登場）のご助力を頂きました。心より御礼申し上げます。

今年9月19～22日に韓国のノグンリで開かれる「第8回国際平和博物館会議」のご案内を冒頭に掲載しましたが、本号の送付が国際会議での報告の申し込み期限（3月15日）と微妙な時期になってしまいました。期限を過ぎても諦めずに上記の安斎科学・平和事務所にご意向をお伝え下さい。調整を試みます。

ネットワークにご貢献頂いた南守夫先生が急逝されました。謹んで哀悼の意を表します。  
（安斎）